NTT docomo

optimus PAD
L-06C

クイックスタートガイド　’11.07

ドコモ　W-CDMA・GSM ／ GPRS・無線LAN方式

このたびは、「L-06C」をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

ご利用の前に、あるいはご利用中に、本書およびその他のオプション機器に添付の個別取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いください。本書に不明な点がございましたら、本書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。

L-06Cは、お客様の有能なパートナーです。大切にお取り扱いの上、末永くご愛用ください。

FOMA端末のご使用にあたって

- FOMA端末は無線を使用しているため、トンネル・地下・建物の中などで電波の届かない所、屋外でも電波の弱い所およびFOMAサービスエリア外ではご使用になれません。また、高層ビル・マンションなどの高層階で見晴らしのよい場所であってもご使用になれない場合があります。なお、電波が強くアンテナマークが4本表示されている場合で、移動せずに使用している場合でも通信が切れる場合がありますので、ご了承ください。
- 公共の場所、人の多い場所や静かな場所などでは、まわりの方のご迷惑にならないようにご使用ください。
- FOMA端末は無線による通信を行っていることから、電波状態の悪い所へ移動するなど送信されてきたデジタル信号を正確に復元することができない場合には、実際の送信内容と異なって受信される場合があります。
- 本FOMA端末は、FOMAプラスエリアおよびFOMAハイスピードエリアに対応しております。
- 本FOMA端末は、ドコモの提供するFOMAネットワークおよびドコモのローミングサービスエリア以外ではご使用になれません。
  The FOMA terminal can be used only via the FOMA network provided by DOCOMO and DOCOMO's roaming area.
- お客様ご自身でFOMA端末に登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。FOMA端末の故障や修理、機種変更やその他の取り扱いなどによって、万一、登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本FOMA端末はパソコンなどと同様に、お客様がインストールを行うアプリケーションなどによっては、お客様のFOMA端末の動作が不安定になったり、お客様の位置情報やFOMA端末に登録された個人情報などがインターネットを経由して外部に発信され不正に利用される可能性があります。このため、ご利用されるアプリケーションなどの提供元および動作状況について十分にご確認の上ご利用ください。

本書についての最新情報は、ドコモのホームページよりダウンロードできます。

■「取扱説明書（PDFファイル）」ダウンロード

http://www.nttdocomo.co.jp/support/trouble/manual/download/index.html

※ URLおよび掲載内容については、将来予告なしに変更することがあります。

- 本FOMA端末から取扱説明書の最新情報を見ることができます。ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「取扱説明書」をタップしてください。

本書の見かた／引きかた

本書は次のような方法で、知りたい機能や検索方法を探すことができます。

索引から　P65

機能の名称や、調べたい項目のキーワード、サービス名で探します。

目次から　P3

目的ごとに分類された目次から探します。

アプリケーション一覧から　P30

アプリケーション一覧から探します。

お知らせ

- 本書の内容の一部、または全部を無断転載することは、禁止されています。
- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の本文中においては「L-06C」を「FOMA端末」と表記させていただいております。あらかじめご了承ください。
- FOMAカード（緑色・白色）をご利用のお客様は、本書内に記載しているドコモUIMカードはFOMAカードと読み替えてください。

操作説明文について

本書では、タッチスクリーンで表示されるアイコンや項目の選択操作を次のように表記して説明しています。

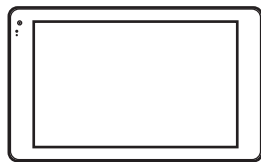
表記	操作内容
ホーム画面で「アプリ」	ホーム画面に表示されている アプリ をタップする
ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」	ホーム画面に表示されている アプリ をタップして、表示された画面の をタップする
「無線とネットワーク」▶「モバイルネットワーク」	画面に表示されている「無線とネットワーク」をタップして、続けて「モバイルネットワーク」をタップする
文字 を１秒以上タッチする	画面に表示されている 文字 を長めに（1 ～２秒間）触れたままにする

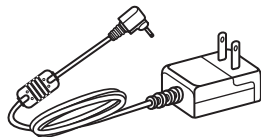
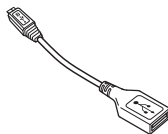
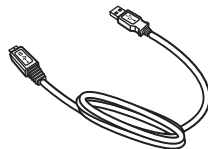
お知らせ

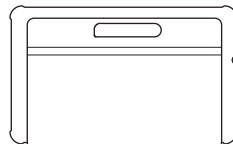
- 本書の操作説明は、ホーム画面の内容が初期設定の場合で説明しています。ホーム画面の内容を変更した場合は、アプリケーションを開く操作などが本書の説明と異なることがあります。
- 本書で掲載している画面はイメージであるため、実際の画面と異なる場合があります。

本体付属品および主なオプション品

本体付属品

L-06C本体
（保証書、リアカバー L23を含む）

クイックスタートガイド（本書）

ACアダプタ L01
（保証書、取扱説明書付き）

microUSB-USB A変換アダプタ L01
（取扱説明書付き）

USBデータケーブル（試供品）
（取扱説明書付き）

主なオプション品

チルト式レザーケース L01※
（取扱説明書付き）

ドッキングステーション L01※
（取扱説明書付き）

※ ドッキングステーションL01とチルト式レザーケースL01は同時に使用できません。

その他オプション品→P48

目次

本書の見かた／引きかた……… 1
本体付属品および主なオプション品……… 2
L-06Cのご利用にあたっての注意事項……… 4
安全上のご注意（必ずお守りください）……… 5
取り扱い上のご注意……… 13

ご使用前の確認と設定……… 17
ドコモUIMカード……… 17
充電……… 18
各部の名称と機能……… 19
電源を入れる／切る……… 21
タッチスクリーンの操作……… 21
初期設定……… 23
画面表示／アイコンの見かた……… 27
ホーム画面……… 28
アプリケーション画面……… 30
文字入力……… 33
ロック／セキュリティ……… 34

各種設定……… 37
設定メニュー……… 37

連絡先／メール／インターネット……… 38
連絡先……… 38
メール……… 38
Gmail……… 38
緊急速報「エリアメール」……… 39
ブラウザ……… 39
トーク……… 39

マルチメディア……… 40
カメラを利用する……… 40
3Dビデオカメラを利用する……… 42
静止画や動画を表示する……… 43
音楽を利用する……… 44
ファイル管理……… 44
Bluetooth通信……… 45
外部機器接続……… 46

付録……… 48
オプション・関連機器のご紹介……… 48
トラブルシューティング（FAQ）……… 48
保証とアフターサービス……… 52
ソフトウェア更新……… 54
FCC Radio Frequency (RF) Information……… 55
FCC Compliance Statement……… 60
Declaration of Conformity……… 61
Important Safety Information……… 62
輸出管理規制……… 63
知的財産権……… 63
索引……… 65

L-06Cのご利用にあたっての注意事項

- 本FOMA端末はｉモードのサイト（番組）への接続やｉアプリなどには対応しておりません。
- 本FOMA端末は、データの同期やソフトウェア更新を行うための通信、サーバーとの接続を維持するための通信など一部自動的に通信を行う仕様となっています。また、アプリケーションのダウンロードや動画の視聴などデータ量の大きい通信を行うと、パケット通信料が高額になりますので、パケット定額サービスまたは定額データプランのご利用を強くおすすめします。
- パソコンを用いてのソフトウェア更新はできません。
- 公共モード（ドライブモード）には対応しておりません。
- 画面ロック中、画面に所有者情報が表示されます。
- お客様の電話番号（自局番号）は以下の手順で確認できます。

  ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「タブレット情報」▶「端末の状態」をタップしてください。
- ご利用のFOMA端末のソフトウェアバージョンは以下の手順で確認できます。

  ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「タブレット情報」をタップしてください。
- 本FOMA端末のソフトウェアを最新の状態に更新することができます。詳しくは「ソフトウェア更新」（P54）をご参照ください。
- FOMA端末の品質改善を行うため、ソフトウェア更新によってオペレーティングシステム（OS）のバージョンアップを行うことがあります。このため、常に最新のOSバージョンをご利用いただく必要があります。また、古いOSバージョンで使用していたアプリケーションが使えなくなる場合や意図しない不具合が発生する場合があります。OSバージョンアップの注意事項や操作手順について、詳しくは「OSバージョンアップについて」（P54）をご参照ください。
- FOMA端末の充電端子に、充電のためACアダプタ L01接続を行った場合には、自動的に電源が入ります。このため、航空機内や病院など、使用を禁止された区域ではACアダプタ L01接続を行わないようご注意ください。
- FOMA端末のmicroUSB接続端子に、USBデータケーブル（試供品）接続を行った場合は、自動的に電源が入ります。このため、航空機内や病院など、使用を禁止された区域ではUSBデータケーブル接続を行わないようご注意ください。
- 本FOMA端末では、FOMAカード（青色）はご使用できません。FOMAカード（青色）をお持ちの場合は、ドコモショップ窓口にてお取り替えください。
- 紛失に備え、画面ロックまたはパスワードを設定しFOMA端末のセキュリティを確保してください。詳しくは「暗証番号とドコモUIM カードの保護について」（P34）をご参照ください。
- 万が一紛失した場合は、Googleトーク、Gmail、Androidマーケットなどの Googleサービスなどを他の人に利用されないように、パソコンより各種サービスアカウントのパスワードを変更してください。
- spモード、mopera Uおよびビジネスmoperaインターネット以外のプロバイダはサポートしておりません。
- 本FOMA端末は音声通話およびデジタル通信（テレビ電話・64Kデータ通信）には対応しておりません。
- 本FOMA端末は内蔵電池の取り外しはできません。
- 画像や動画、音楽などのお客様データは、パソコンでのバックアップを行ってください。接続方法について、詳しくは「ファイル管理」（P44）、もしくは「外部機器接続」（P46）をご参照ください。

  また、各種オンラインによるデータバックアップサービスのご利用をおすすめします。

安全上のご注意（必ずお守りください）

■ ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、お読みになった後は大切に保管してください。

■ ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。

■ 次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

表示	内容
⚠ 危険	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠ 警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、「軽傷を負う可能性が想定される場合、および、物的損害の発生が想定される」内容です。

■ 次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。

絵表示	内容
禁止	禁止（してはいけないこと）を示します。
分解禁止	分解してはいけないことを示す記号です。
濡れ手禁止	濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。
水濡れ禁止	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。

絵表示	内容
指示	指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示します。
電源プラグを抜く	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

■「安全上のご注意」は下記の７項目に分けて説明しています。

FOMA端末、アダプタ、ドコモUIMカードの取り扱いについて（共通）…… P6
FOMA端末の取り扱いについて …… P7
アダプタの取り扱いについて …… P10
ドコモUIMカードの取り扱いについて …… P11
医用電気機器近くでの取り扱いについて …… P11
3D映像の視聴について …… P11
材質一覧 …… P12

FOMA端末、アダプタ、ドコモUIMカードの取り扱いについて（共通）

危険

禁止

高温になる場所（火のそば、暖房器具のそば、こたつの中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）で使用、保管、放置しないでください。
火災、やけど、けがの原因となります。

禁止

電子レンジなどの加熱調理機器や高圧容器に入れないでください。
火災、やけど、けが、感電の原因となります。

分解禁止

分解、改造をしないでください。
火災、やけど、けが、感電の原因となります。

水濡れ禁止

水や飲料水、ペットの尿などで濡らさないでください。
火災、やけど、けが、感電の原因となります。

指示

FOMA端末に使用するアダプタは、NTTドコモが指定したものを使用してください。
火災、やけど、けが、感電の原因となります。

警告

禁止

強い力や衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。
火災、やけど、けが、感電の原因となります。

禁止

充電端子や外部接続端子（microUSB接続端子、イヤホンマイク端子、HDMI端子）に導電性異物（金属片、鉛筆の芯など）を接触させないでください。また、内部に入れないでください。
火災、やけど、けが、感電の原因となります。

禁止

使用中や充電中に、布団などで覆ったり、包んだりしないでください。
火災、やけどの原因となります。

指示

ガソリンスタンドなど引火性ガスが発生する場所に立ち入る場合は必ず事前にFOMA端末の電源を切り、充電をしている場合は中止してください。
ガスに引火する恐れがあります。

指示

使用中、充電中、保管時に、異臭、発熱、変色、変形など、いままでと異なるときは、直ちに次の作業を行ってください。

- **電源プラグをコンセントから抜く。**
- **FOMA端末の電源を切る。**

火災、やけど、けが、感電の原因となります。

⚠ 注意

禁止

ぐらついた台の上や傾いた場所など、不安定な場所には置かないでください。
落下して、けがの原因となります。

禁止

湿気やほこりの多い場所や高温になる場所には、保管しないでください。
火災、やけど、感電の原因となります。

指示

子供が使用する場合は、保護者が取り扱いの方法を教えてください。また、使用中においても、指示どおりに使用しているかをご確認ください。
けがなどの原因となります。

指示

乳幼児の手の届かない場所に保管してください。
誤って飲み込んだり、けがなどの原因となったりします。

指示

FOMA端末をアダプタに接続した状態で長時間連続使用される場合には特にご注意ください。
充電しながら長時間使用すると、FOMA端末やアダプタの温度が高くなることがあります。温度の高い部分に直接長時間触れるとお客様の体質や体調によっては肌に赤みやかゆみ、かぶれなどが生じたり、低温やけどの原因となったりする恐れがあります。

FOMA端末の取り扱いについて

⚠ 危険

禁止

火の中に投下しないでください。
内蔵電池の発火、破裂、発熱、漏液の原因となります。

禁止

釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。
内蔵電池の発火、破裂、発熱、漏液の原因となります。

指示

内蔵電池内部の液体などが目の中に入ったときは、こすらず、すぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の診療を受けてください。
失明の原因となります。

⚠ 警告

禁止

ライトの発光部を人の目に近づけて点灯発光させないでください。特に、乳幼児を撮影するときは、1m以上離れてください。
視力障害の原因となります。また、目がくらんだり驚いたりしてけがなどの事故の原因となります。

禁止

FOMA端末内のドコモUIMカードスロットに水などの液体や金属片、燃えやすいものなどの異物を入れないでください。
火災、やけど、けが、感電の原因となります。

指示

航空機内や病院など、使用を禁止された区域では、FOMA端末の電源を切ってください。
電子機器や医用電気機器に悪影響を及ぼす原因となります。医療機関内における使用については各医療機関の指示に従ってください。
また、航空機内での使用などの禁止行為をした場合、法令により罰せられます。
FOMA端末の充電端子に、充電のためACアダプタ L01接続を行った場合には、自動的に電源が入ります。このため、航空機内や病院など、使用を禁止された区域ではACアダプタ L01接続を行わないようご注意ください。
FOMA端末のmicroUSB接続端子に、USBデータケーブル（試供品）接続を行った場合は、自動的に電源が入ります。このため、航空機内や病院など、使用を禁止された区域ではUSBデータケーブル（試供品）接続を行わないようにご注意ください。
ただし、電波を出さない設定にすることなどで、機内で携帯電話が使用できる場合には、航空会社の指示に従ってご使用ください。

指示

通知音が鳴っているときなどは、必ずFOMA端末を耳から離してください。また、イヤホンマイクなどをFOMA端末に装着し、ゲームや音楽再生などをする場合は、適度なボリュームに調節してください。
音量が大きすぎると難聴の原因となります。
また、周囲の音が聞こえにくいと、事故の原因となります。

指示

心臓の弱い方は、着信バイブレータ（振動）や通知音量の設定に注意してください。
心臓に悪影響を及ぼす原因となります。

指示

医用電気機器などを装着している場合は、医用電気機器メーカもしくは販売業者に、電波による影響についてご確認の上ご使用ください。
医用電気機器などに悪影響を及ぼす原因となります。

指示

高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは、FOMA端末の電源を切ってください。
電子機器が誤動作するなどの悪影響を及ぼす原因となります。
※ ご注意いただきたい電子機器の例
補聴器、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他の自動制御機器など。
植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器、その他の医用電気機器をご使用される方は、当該の各医用電気機器メーカもしくは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

指示

万が一、ディスプレイ部やカメラのレンズを破損した際には、割れたガラスや露出したFOMA端末の内部にご注意ください。
ディスプレイ部の表面には強化ガラス、カメラのレンズの表面にはプラスチックパネルを使用し、ガラスが飛散りにくい構造となっておりますが、誤って割れた破損部や露出部に触れますと、けがの原因となります。

指示

内蔵電池が漏液したり、異臭がしたりするときは、直ちに使用をやめて火気から遠ざけてください。
漏液した液体に引火し、発火、破裂の原因となります。

⚠ 注意

FOMA端末が破損したまま使用しないでください。
火災、やけど、けが、感電の原因となります。

誤ってディスプレイを破損し、液晶が漏れた場合には、顔や手などの皮膚につけないでください。
失明や皮膚に傷害を起こす原因となります。
液晶が目や口に入った場合には、すぐにきれいな水で洗い流し、直ちに医師の診断を受けてください。
また、皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにアルコールなどで拭き取り、石鹸で水洗いしてください。

一般のゴミと一緒に捨てないでください。
発火、環境破壊の原因となります。不要となったFOMA端末は、ドコモショップなど窓口にお持ちいただくか、電池の回収を行っている市町村の指示に従ってください。

自動車内で使用する場合、自動車メーカもしくは販売業者に、電波による影響についてご確認の上ご使用ください。
車種によっては、まれに車載電子機器に悪影響を及ぼす原因となりますので、その場合は直ちに使用を中止してください。

お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異状が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診療を受けてください。

- 各箇所の材質について→材質一覧（P12）

ディスプレイを見る際は、十分明るい場所で、画面からある程度の距離をとってご使用ください。
視力低下の原因となります。

内蔵電池内部の液体などが漏れた場合は、顔や手などの皮膚につけないでください。
失明や皮膚に傷害を起こす原因となります。
液体などが目や口に入った場合や、皮膚や衣類に付着した場合は、すぐにきれいな水で洗い流してください。
また、目や口に入った場合は、洗浄後直ちに医師の診断を受けてください。

アダプタの取り扱いについて

⚠ 警告

禁止
アダプタのコードが傷んだら使用しないでください。
火災、やけど、感電の原因となります。

禁止
ACアダプタは、風呂場などの湿気の多い場所では使用しないでください。
火災、やけど、感電の原因となります。

禁止
雷が鳴り出したら、アダプタには触れないでください。
感電の原因となります。

禁止
コンセントにつないだ状態で充電端子をショートさせないでください。また、充電端子に手や指など、身体の一部を触れさせないでください。
火災、やけど、感電の原因となります。

禁止
アダプタのコードの上に重いものをのせないでください。
火災、やけど、感電の原因となります。

禁止
コンセントにACアダプタを抜き差しするときは、金属製ストラップなどの金属類を接触させないでください。
火災、やけど、感電の原因となります。

濡れ手禁止
濡れた手でアダプタのコード、コンセントに触れないでください。
火災、やけど、感電の原因となります。

指示
指定の電源、電圧で使用してください。
誤った電圧で使用すると火災、やけど、感電の原因となります。
ACアダプタ：AC100 ～ 240V（家庭用交流コンセントのみに接続すること）

指示
電源プラグについたほこりは、拭き取ってください。
火災、やけど、感電の原因となります。

指示
ACアダプタをコンセントに差し込むときは、確実に差し込んでください。
火災、やけど、感電の原因となります。

指示
電源プラグをコンセントから抜く場合は、アダプタのコードを無理に引っ張らず、アダプタを持って抜いてください。
火災、やけど、感電の原因となります。

電源プラグを抜く
長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災、やけど、感電の原因となります。

電源プラグを抜く
万が一、水などの液体が入った場合は、直ちにコンセントから電源プラグを抜いてください。
火災、やけど、感電の原因となります。

電源プラグを抜く
お手入れの際は、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
火災、やけど、感電の原因となります。

ドコモUIMカードの取り扱いについて

⚠ 注意

ドコモUIMカードを取り外す際は切断面にご注意ください。
けがの原因となります。

医用電気機器近くでの取り扱いについて

■ **本記載の内容は「医用電気機器への電波の影響を防止するための携帯電話端末等の使用に関する指針」（電波環境協議会）に準ずる。**

⚠ 警告

医療機関の屋内では次のことを守って使用してください。

- 手術室、集中治療室（ICU）、冠状動脈疾患監視病室（CCU）にはFOMA端末を持ち込まないでください。
- 病棟内では、FOMA端末の電源を切ってください。
- ロビーなどであっても付近に医用電気機器がある場合は、FOMA端末の電源を切ってください。
- 医療機関が個々に使用禁止、持ち込み禁止などの場所を定めている場合は、その医療機関の指示に従ってください。

満員電車の中など混雑した場所では、付近に植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着している方がいる可能性がありますので、FOMA端末の電源を切ってください。
電波により植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器などの医用電気機器を装着されている場合は、装着部からFOMA端末は22cm以上離して携行および使用してください。
電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。

自宅療養などにより医療機関の外で、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器以外の医用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医用電気機器メーカなどにご確認ください。
電波により医用電気機器の作動に悪影響を及ぼす原因となります。

3D映像の視聴について

⚠ 注意

光過敏の既往症、心臓疾患、体調不良、睡眠不足、疲れた状態、酒気を帯びた方は3D映像を視聴しないでください。
病状などの悪化の原因となることがあります。

指示

3D映像の視聴中に、画像が二重に見えたり立体感を感じにくくなったりした場合は、使用を中止してください。
目の疲れの原因となることがあります。

指示

3D映像の視聴中に、疲労感や不快感（乗り物酔いに似た症状など）を感じた場合は、使用を中止してください。
体調不良の原因となることがあります。適度な休憩をとってください。
電車や自動車の中など、画面が揺れやすい環境では特に注意してください。

指示

3D映像の視聴は、7歳以上を目安にしてください。
子供が視聴する場合は、疲労や不快感などに対する反応がわかりにくいため、急に体調が悪くなることがあります。
保護者の管理のもと視聴させ、目の疲れが無いかご注意ください。

指示

3D映像の視聴時は、30分の視聴を目安に、適度に休憩をとってください。
長時間の視聴により、目の疲れの原因となることがあります。

指示

3D映像の視聴時は、画面の正面から視聴してください。
目の疲れの原因となることがあります。

材質一覧

使用箇所	使用材質	表面処理
ディスプレイパネル	強化ガラス	簡単洗浄コーティング
外装（側面）	PA+GF+MG	UVコーティング
ダンパー（側面）	PC+GF+TPE	
バッテリーカバー	PC+GF	UVコーティング
音量左／右キー	PC+TPU	UVコーティング
電源キー	PC+TPU	UVコーティング
外装裏面、リアカバー	PC+GF	
リアカメラレンズパネル	アクリル樹脂	
フラッシュパネル	アクリル樹脂	
ドッキングステーション端子（充電用）	PA+SUS+C3604BD, Ni,Au,Ag	メッキ処理
ドッキングステーション端子（USB接続用）	PA+SUS+C3604BD, Ni,Au,Ag	メッキ処理
スピーカーグリル	STS	PVDコーティング
リセットボタン	PC	
ドコモUIMカードスロット	コルソン合金+ステンレス+リン青銅+LCP樹脂	メッキ処理
ネジ	SWRCH10A	Zn3+Black
アンテナ	PC	

取り扱い上のご注意

共通のお願い

■水をかけないでください。
FOMA端末、アダプタ、ドッキングステーション、ドコモUIMカードは防水性能を有しておりません。風呂場などの湿気の多い場所でのご使用や、雨などがかかることはおやめください。また身に付けている場合、汗による湿気により内部が腐食し故障の原因となります。調査の結果、これらの水濡れによる故障と判明した場合、保証対象外となり修理できないことがありますので、あらかじめご了承ください。なお、保証対象外ですので修理を実施できる場合でも有料修理となります。

■お手入れは乾いた柔らかい布（めがね拭きなど）で拭いてください。
- 乾いた布などで強く擦ると、ディスプレイに傷がつく場合があります。
- ディスプレイに水滴や汚れなどが付着したまま放置すると、シミになることがあります。
- アルコール、シンナー、ベンジン、洗剤などで拭くと、印刷が消えたり、色があせたりすることがあります。

■端子は時々乾いた綿棒などで清掃してください。
端子が汚れていると接触が悪くなり、電源が切れたり充電不十分の原因となったりしますので、端子を乾いた綿棒などで拭いてください。
また、清掃する際には端子の破損に十分ご注意ください。

■エアコンの吹き出し口の近くに置かないでください。
急激な温度の変化により結露し、内部が腐食し故障の原因となります。

■FOMA端末などに無理な力がかからないように使用してください。
多くのものが詰まった荷物の中に入れたりするとディスプレイ、内部基板などの破損、故障の原因となります。
また、外部接続機器を外部接続端子（microUSB接続端子、イヤホンマイク端子、HDMI端子）に差した状態の場合、コネクタ破損、故障の原因となります。

■ディスプレイは金属などで擦ったり引っかいたりしないでください。
傷つくことがあり故障、破損の原因となります。

■アダプタ、ドッキングステーションに添付されている個別の取扱説明書をよくお読みください。

FOMA端末についてのお願い

■タッチスクリーンの表面を強く押したり、爪やボールペン、ピンなど先の尖ったもので操作したりしないでください。
タッチスクリーンが破損する原因となります。

■極端な高温、低温は避けてください。
温度は5℃～35℃、湿度は45%～85%の範囲でご使用ください。

■一般の電話機やテレビ・ラジオなどをお使いになっている近くで使用すると、悪影響を及ぼす原因となりますので、なるべく離れた場所でご使用ください。

■お客様ご自身でFOMA端末に登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。
万が一登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■FOMA端末を落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
故障、破損の原因となります。

■ microUSB接続端子やイヤホンマイク端子やHDMI端子を接続する際に斜めに差したり、差した状態で引っ張ったりしないでください。
故障、破損の原因となります。

■ 使用中、充電中、FOMA端末は温かくなりますが、異常ではありません。そのままご使用ください。

■ カメラを直射日光の当たる場所に放置しないでください。
素子の退色・焼付きを起こす場合があります。

■ リアカバーを外したまま使用しないでください。
故障、破損の原因となったりします。

■ 磁気カードなどをFOMA端末に近づけないでください。
キャッシュカード、クレジットカード、テレホンカード、フロッピーディスクなどの磁気データが消えてしまうことがあります。

■ FOMA端末に磁気を帯びたものを近づけないでください。
強い磁気を近づけると誤動作の原因となります。

■ 内蔵電池は消耗品です。
使用状態などによって異なりますが、十分に充電しても使用時間が極端に短くなったときは内蔵電池の交換時期です。内蔵電池の交換につきましては、本書裏面の「故障お問い合わせ先」または、ドコモ指定の故障取扱窓口までお問い合わせください。

■ 充電は、適正な周囲温度（5℃～35℃）の場所で行ってください。

■ 内蔵電池の使用時間は、使用環境や内蔵電池の劣化度により異なります。

■ 内蔵電池を保管される場合は、次の点にご注意ください。
- フル充電状態（充電完了後すぐの状態）での保管
- 電池残量なしの状態（本体の電源が入らない程消費している状態）での保管

内蔵電池の性能や寿命を低下させる原因となります。
保管に適した電池残量は、目安として残量が40パーセント程度の状態をお勧めします。

アダプタについてのお願い

■ 充電は、適正な周囲温度（5℃～35℃）の場所で行ってください。

■ 次のような場所では、充電しないでください。
- 湿気、ほこり、振動の多い場所
- 一般の電話機やテレビ・ラジオなどの近く

■ 充電中、アダプタが温かくなることがありますが、異常ではありません。そのままご使用ください。

■ 抜け防止機構のあるコンセントをご使用の場合、そのコンセントの取扱説明書に従ってください。

■ 強い衝撃を与えないでください。また、充電端子を変形させないでください。
故障の原因となります。

ドコモUIMカードについてのお願い

■ ドコモUIMカードの取り付け／取り外しには、必要以上に力を入れないでください。

■ 他のICカードリーダー／ライターなどにドコモUIMカードを挿入して使用した結果として故障した場合は、お客様の責任となりますので、ご注意ください。

■ IC部分はいつもきれいな状態でご使用ください。

■ お手入れは、乾いた柔らかい布（めがね拭きなど）で拭いてください。

■ **お客様ご自身で、ドコモUIMカードに登録された情報内容は、別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いします。**
万が一登録された情報内容が消失してしまうことがあっても、当社としては責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■ **環境保全のため、不要になったドコモUIMカードはドコモショップなど窓口にお持ちください。**

■ **ICを傷つけたり、不用意に触れたり、ショートさせたりしないでください。**
データの消失、故障の原因となります。

■ **ドコモUIMカードを落としたり、衝撃を与えたりしないでください。**
故障の原因となります。

■ **ドコモUIMカードを曲げたり、重いものをのせたりしないでください。**
故障の原因となります。

■ **ドコモUIMカードにラベルやシールなどを貼った状態で、FOMA端末に取り付けないでください。**
故障の原因となります。

Bluetooth機能を使用する場合のお願い

■ **FOMA端末は、Bluetooth機能を使用した通信時のセキュリティとして、Bluetooth標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、設定内容などによってセキュリティが十分でない場合があります。Bluetooth機能を使用した通信を行う際にはご注意ください。**

■ **Bluetooth機能を使用した通信時にデータや情報の漏洩が発生しましても、責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。**

■ **周波数帯について**
FOMA端末のBluetooth機能／無線LAN機能が使用する周波数帯は、端末本体の銘版シールに記載されています。ラベルの見かたは次のとおりです。

2.4FH1/DS4/OF4
■■■ ■■■ ■■■

2.4	：	2400MHz帯を使用する無線設備を表します。
FH/DS/OF	：	変調方式がFH-SS、DS-SS、OFDMであることを示します。
1	：	想定される与干渉距離が10m以下であることを示します。
4	：	想定される与干渉距離が40m以下であることを示します。
■■■ ■■■ ■■■	：	2400MHz～2483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味します。

利用可能なチャンネルは国により異なります。
航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

■ **Bluetooth機器使用上の注意事項**
本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局など（以下「他の無線局」と略します）が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、本製品と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、「電源を切る」など電波干渉を避けてください。
3. その他、ご不明な点につきましては、本書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。

無線LAN（WLAN）についてのお願い

無線LAN（WLAN）は、電波を利用して情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続できる利点があります。その反面、セキュリティの設定を行っていないときは、悪意ある第三者に通信内容を盗み見られたり、不正に侵入されてしまう可能性があります。お客様の判断と責任において、セキュリティの設定を行い、使用することを推奨します。

■ 無線LANについて

電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで使用しないでください。

- 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
- テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- 近くに複数の無線LANアクセスポイントが存在し、同じチャンネルを使用していると、正しく検索できない場合があります。

■ 2.4GHz機器使用上の注意事項

WLAN搭載機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの家電製品や産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかご利用を中断していただいた上で、本書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせいただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、本書裏面の「総合お問い合わせ先」までお問い合わせください。

注意

■ **改造されたFOMA端末は絶対に使用しないでください。改造した機器を使用した場合は電波法に抵触します。**

FOMA端末は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けており、その証として「技適マーク 」がFOMA端末の銘版シールに表示されております。

FOMA端末のネジを外して内部の改造を行った場合、技術基準適合証明などが無効となります。

技術基準適合証明などが無効となった状態で使用すると、電波法に抵触しますので、絶対に使用されないようにお願いいたします。

■ **自動車などを運転中の使用にはご注意ください。**

運転中の携帯電話を手で保持しての使用は罰則の対象となります。

ただし、傷病者の救護または公共の安全の維持など、やむを得ない場合は対象外となります。

■ **基本ソフトウェアを不正に変更しないでください。**

ソフトウェアの改造とみなし故障修理をお断りする場合があります。

■ **通信中は、FOMA端末を身体から15mm以上離してご使用ください**

3D映像の視聴について

■ **3D映像の見え方については個人差があります。**

■ **3D映像を視聴する際は、ディスプレイと両目を平行な状態にしてください。**

ご使用前の確認と設定

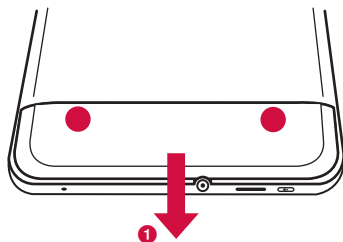
ドコモUIMカード

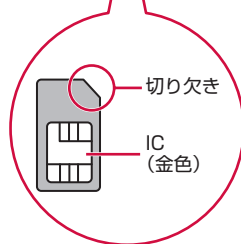
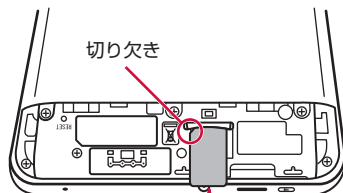
ドコモUIMカードとは、お客様の情報が記録されているICカードです。

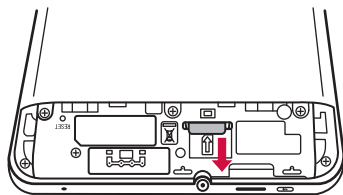
お知らせ

- 本FOMA端末では、FOMAカード（青色）はご使用できません。FOMA カード（青色）をお持ちの場合は、ドコモショップ窓口でお取り替えください。

ドコモUIMカードを取り付ける

1 リアカバーの●部分を押しながら、矢印（❶）の方向に押してリアカバーを取り外す

2 ドコモUIMカードの金色のIC面を下に向けて固定されるまで奥に差し込む

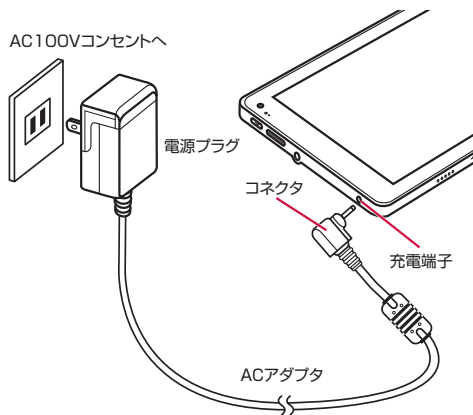
- 「カチッ」と音がするまで、奥に差し込んでください。

ドコモUIMカードを取り外す

1. リアカバーを外し、ドコモUIMカードをいったん奥まで押し込み、ロックを外してから、ドコモUIMカードを取り出す

充電

お知らせ

- USBデータケーブル（試供品）を使ってパソコンに接続しても充電されません。

ACアダプタで充電する

付属のACアダプタ L01を使って充電する方法を説明します。

1 ACアダプタのコネクタをFOMA端末の充電端子に差し込む

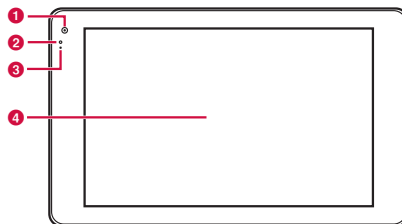
2 ACアダプタのプラグを電源コンセントに差し込む

- 充電中は、ステータスバーの電池アイコンが のように表示されるか、 ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ ▶ のようにアニメーション表示されます。
- 内蔵電池がフル充電状態になると、ステータスバーの電池アイコンが になります。

3 充電が終わったら、FOMA端末からACアダプタのコネクタを取り外す

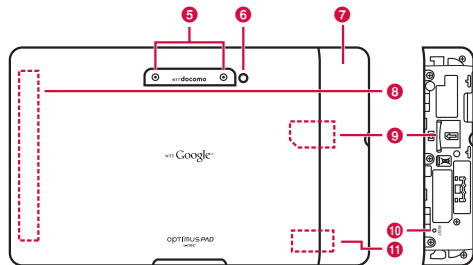
4 ACアダプタのプラグを電源コンセントから取り外す

各部の名称と機能

各部の名称

❶ インカメラ

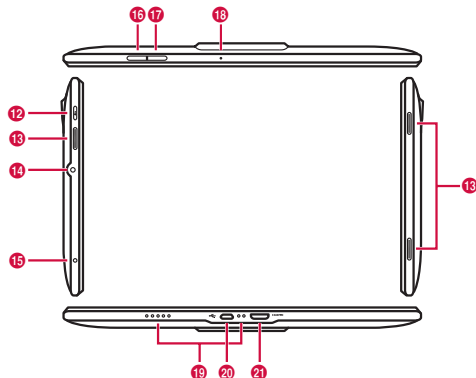
❷ 照度センサー：周りの明るさを検知して、バックライトの明るさの増減を自動的に調節します。

❸ インジケーターLED：バックライトオフの状態で、Email、GmailおよびGoogleトークからのメッセージを受信したときに点滅します。

❹ ディスプレイ（タッチスクリーン）

❺ メインカメラ
❻ フラッシュ
❼ リアカバー
❽ FOMAアンテナ※
❾ ドコモUIMカードスロット部
❿ リセットボタン：本FOMA端末の動作が不安定になったり、操作できなくなったりした場合に、リセットボタンを押して再起動します。
⓫ GPSアンテナ部※

※ アンテナは本体に内蔵されています。よりよい条件で通信をするために、アンテナ部を手で覆わないようにしてお使いください。

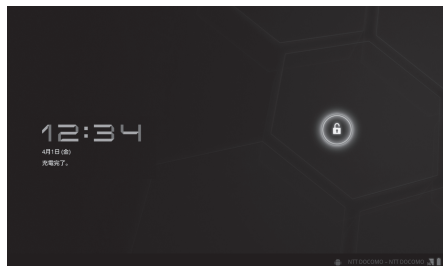
お知らせ

- 各センサー部分にシールなどを貼らないでください。
- リセットボタンを押しても、設定は初期化されません。
- リセットボタンを押して電源を切ると、操作途中のデータは保存されません。

⓬ 電源キー／画面ロックキー
- バックライト点灯中に押すと、画面がロックします。

⓭ スピーカー
⓮ イヤホンマイク端子
⓯ 充電端子
⓰ 音量キー（左）
⓱ 音量キー（右）
⓲ マイク
⓳ ドッキングステーション端子
⓴ microUSB接続端子
㉑ HDMI端子（typeC）

電源を入れる／切る

電源を入れる

1 電源キーを1秒以上押し続ける

2 を外の円にドラッグしてキーロックを解除する

電源を切る

1 電源キーを1秒以上押し続ける

2 「OK」

バックライトを点灯する

1 電源キーを押す

- キーロック画面が表示されます。なお、バックライトが消灯の状態でも、アラーム鳴動時など自動的に点灯されることがあります。

タッチスクリーンの操作

本FOMA端末は、ディスプレイにタッチスクリーンを採用しており、スクリーンに触れることでさまざまな操作が行えます。

タッチスクリーン利用上の注意

タッチスクリーンは指で軽く触れるように設計されています。指で強く押したり、先が尖ったもの（爪／ボールペン／ピンなど）を押し付けないでください。
以下の場合はタッチスクリーンに触れても動作しないことがあります。また、誤動作の原因となります。

- 手袋をしたままでの操作
- 爪の先での操作
- 異物を操作面に乗せたままでの操作
- 保護シートやシールなどを貼っての操作

タッチスクリーンの操作

タッチスクリーンでは以下の操作ができます。

- タップ：画面に軽く触れる
- ダブルタップ：画面に2度続けて軽く触れる
- タッチ：画面に長く触れる
- スワイプ：画面を軽くなぞる
- ドラッグ：画面をタッチしたままなぞって指を離す
- ピンチアウト：2本の指で画面をタッチし、タッチしたまま指の間を広げる
- ピンチイン：2本の指を開いて画面をタッチし、タッチしたままつまむように指を近づける

項目を開く

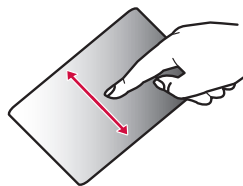
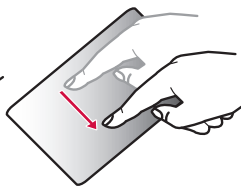
1 項目をタップする

チェックマークを付ける／外す

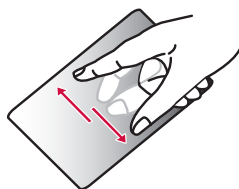
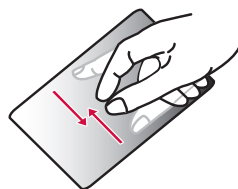
1 チェックボックスがある項目をタップする

- チェックマークが付いていない場合、チェックマークが付きます。
- チェックマークが付いている場合、チェックマークが外れます。

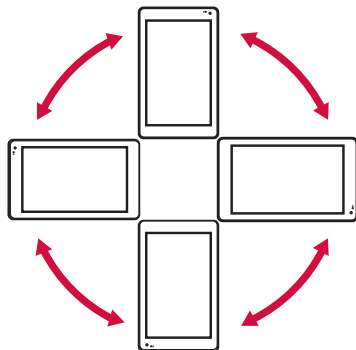
画面をスクロールする

画面を上下にスクロールできます。一部のウェブページでは、左右にスクロールすることも可能です。

ドラッグすると画面がスクロールします。

スワイプすると画面が高速でスクロールします。スクロール中にタッチすると、スクロールが停止します。

表示を拡大／縮小する

使用するアプリケーションによっては、画面の文字が小さくて見にくいとき、表示を拡大することができます。また、拡大した状態から全体表示とするため縮小することもできます。

ピンチアウトすると指の動きに合わせて画面が拡大表示されます。

ピンチインすると指の動きに合わせて画面が縮小表示されます。

画面の表示方向を変更する

本FOMA端末を横向き／縦向きにすると、自動的に横画面表示／縦画面表示に切り替わります。また、上下を逆さにしても画面表示は切り替わります。

お知らせ

- 表示方向が自動的に切り替わらないアプリケーションもあります。
- ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「画面」をタップし、「画面の自動回転」のチェックマークを外すと、本FOMA端末を横向き／縦向きにしても画面の表示方向が切り替わらないようにすることができます。

初期設定

初めて電源を入れたときの設定

本FOMA端末の電源を初めて入れたときは、FOMA端末で使用する言語などの初期設定が必要です。一度設定を行うと、次回以降、設定する必要はありません。また、ここでの設定は、後から変更できます。

- ネットワークとの接続や設定の省略などによっては手順が異なります。
- 「スキップ」をタップすると該当の設定を省略できます。

1 電源キーを1秒以上押し続ける

2 言語を選択して、「開始」

3 Google位置情報サービスの使用を許可するかどうかを設定して、「次へ」

4 「日時の設定」画面が表示された場合は、日時を設定して、「次へ」

5 Googleアカウントの設定で、「次へ」

- 画面の指示に従ってログイン情報などを入力してください。
- 文字入力方法について、詳しくは「文字入力」(P33)をご参照ください。

6 「バックアップと復元」画面が表示された場合は、バックアップと復元の設定をして、「完了」

Wi-Fiを設定する

本FOMA端末は、Wi-Fiネットワークや公衆無線LANサービスのアクセスポイントに接続してインターネットなどを利用できます。
接続するには、アクセスポイントの接続情報を設定する必要があります。

お知らせ

- Wi-Fi機能がONのときもパケット通信を利用できます。ただし、Wi-Fiネットワークに接続中は、Wi-Fiネットワークが優先されます。Wi-Fiネットワークが切断された場合には、自動的に3G／GPRSネットワークでの接続に切り替わります。切り替わったままでご利用される場合は、パケット通信料が発生しますのでご注意ください。
- Wi-Fiを使用しないときはOFFにすることで、電池の消費を抑制できます。

Wi-Fiネットワークのステータス

本FOMA端末がWi-Fiネットワークに接続されている場合、ステータスバーに が表示されます。また、ネットワークの通知がONとなっている場合、範囲内で利用可能なWi-Fiネットワークが検出されると、常に がステータスバーに表示されます。

Wi-Fiネットワークに接続する

1. ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「無線とネットワーク」
2. 「Wi-Fi」にチェックマークを付ける
3. 「Wi-Fi設定」
4. 接続するWi-Fiネットワーク名をタップする
   - セキュリティで保護されたWi-Fiネットワークに接続を試みると、そのWi-Fiネットワークのセキュリティキーの入力が求められます。「パスワード」ボックスにネットワークのパスワードを入力して「接続」をタップしてください。

Wi-Fiのプロキシ設定を行う

1. ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「無線とネットワーク」▶「Wi-Fi設定」
2. 設定するWi-Fiネットワーク名をタップする
3. 「プロキシ設定」ボックスをタップする ▶「手動」
4. 「プロキシのホスト名」「プロキシポート」「プロキシを不使用」欄にそれぞれの情報を入力する
5. 「接続」

静的IPアドレスを指定してWi-Fiネットワークに接続する

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「無線とネットワーク」▶「Wi-Fi設定」

2 設定するWi-Fiネットワーク名をタップする

3 「IP設定」ボックスをタップする ▶「静的」

4 「IPアドレス」「ゲートウェイ」「ネットワークプレフィックス長」「DNS 1」「DNS 2」をそれぞれ順にタップする

Wi-Fiネットワークの受信エリアに入ったら通知する

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「無線とネットワーク」▶「Wi-Fi設定」

2 「Wi-Fi」にチェックマークを付ける

3 「ネットワークの通知」にチェックマークを付ける

Wi-Fiネットワークを追加する

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「無線とネットワーク」▶「Wi-Fi設定」

2 「Wi-Fiネットワークを追加」

3 「ネットワークSSID」ボックスをタップし、ネットワークSSIDを入力する

4 「セキュリティ」

- 「なし」「WEP」「WPA/WPA2 PSK」「802.1x EAP」の４種類から適切なものを選択します。

5 「パスワード」ボックスをタップしてパスワードを入力する

6 「保存」

Wi-Fiネットワークのパスワードを変更する

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「無線とネットワーク」▶「Wi-Fi設定」

2 Wi-Fiネットワーク名を１秒以上タッチする

3 「ネットワークを変更」

- 「パスワード」ボックスをタップし、新たなパスワードを入力します。

Wi-Fiネットワークから切断する

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「無線とネットワーク」▶「Wi-Fi設定」

2 切断するWi-Fiネットワーク名を1秒以上タッチする

3 「ネットワークから切断」

オンラインサービスアカウントを設定する

Google、Microsoft Exchange ActiveSyncなどのオンラインサービスで使用するアカウントを設定することで、本FOMA端末の情報を更新できます。また、サーバーの情報が更新された場合、自動的に同期するようにも設定できます。
さらに、不要なアカウントは削除することもできます。

オンラインサービスアカウントを追加する

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「アカウントと同期」

2 「アカウントを追加」

3 アカウントを設定するオンラインサービスをタップする

- 画面の指示に従ってログイン情報などを入力してください。

オンラインサービスのデータを手動で同期する

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「アカウントと同期」

2 同期するアカウントをタップする

3 同期データをタップする

オンラインサービスアカウントを削除する

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「アカウントと同期」

2 削除するアカウントをタップする

3 「アカウントを削除」

4 「アカウントを削除」

画面表示／アイコンの見かた

ステータスバー

ステータスバーは画面下部に表示されます。ステータスバーにはFOMA端末のステータスと通知情報が表示されます。ステータスバーの時計の左側に通知アイコンが表示され、右側に本体のステータスアイコンが表示されます。

- ステータスアイコンおよび通知アイコンについて、詳しくは本FOMA端末の取扱説明書をご参照ください。

設定パネルを表示する

1 ステータスバーのステータスアイコンをタップする

- ステータスパネルが表示されます。

2 ステータスパネルをタップする

- 設定パネルが表示されます。

通知内容の詳細を表示する

1 ステータスバーの通知アイコンをタップする

- 通知のポップアップが表示されます。

2 通知のポップアップをタップする

- 最適なアプリケーションが開き、通知内容の詳細が表示されます。

主なステータスアイコン

アイコン	説明
	電波レベル
	圏外
	Bluetooth機能ON（P45）
	Bluetoothデバイスに接続中
	電池残量
	充電中（P19）
（白）／（青）	Wi-Fi接続中（アカウント登録なし状態）／（Googleアカウントでログイン状態）（P24）

主な通知アイコン

アイコン	説明
	アラーム設定中
	新着Gmailあり（P38）
	新着Emailあり（P38）
	カレンダーに設定された予定あり

ホーム画面

ホーム画面ではアプリケーションのショートカットやウィジェットを追加／移動したり、壁紙を変えるなどカスタマイズできます。
ホーム画面には、ショートカットやウィジェットを追加するための画面が左右2画面ずつ用意されています。

❶ 直前に操作していた画面に戻ります。

❷ ホーム画面に戻ります。

❸ 最近使用したアプリケーションの一覧が表示されます。

❹ Google
FOMA端末内の連絡先やアプリケーション、ウェブページなどを対象として検索（P30）できます。

❺ アプリ
アプリケーション一覧画面が開きます。アプリケーション一覧画面では、「すべて」と「マイアプリ」のタブが選択できます。

❻ ＋
ホーム画面のカスタマイズ画面が開きます。

❼ **ウィジェット（例：カレンダー）**
タップして、ウィジェット（ホーム画面に配置するアプリケーション）の起動や操作を行います。

❽ **ユーザーカスタマイズ部**
ホーム画面のカスタマイズ画面で行ったカスタマイズが反映されます。配置したアプリケーションのショートカットやウィジェットを移動したり、削除したりできます。

左または右の画面の領域を表示する

1 ホーム画面を左または右にドラッグする

- 左または右の画面の領域が表示されます。

ホーム画面のカスタマイズ画面の見かた

❶ **ホーム枠**
アイテムをこの枠にドラッグし指を離すとホーム画面にアイコンが配置されます。

❷ **タブ**
「ウィジェット」「アプリのショートカット」「壁紙」「その他」を切り替えます。

❸ **アイテム**
ホーム画面に配置するアプリケーションやウィジェットです。

ホーム画面にウィジェットを追加する

1 ホーム画面で、＋をタップする

2 「ウィジェット」

3 追加するウィジェットをホーム枠にドラッグし、移動先で指を離す

ホーム画面にショートカットを追加する

1 ホーム画面で、＋をタップする

2 「アプリのショートカット」

3 追加するショートカットをホーム枠にドラッグし、移動先で指を離す

ショートカットアイコンを移動する

1 ホーム画面で、移動するショートカットアイコンを１秒以上タッチする

2 そのままドラッグし、移動先で指を離す

壁紙を変更する

1 ホーム画面で、＋をタップする

2 「壁紙」

3 壁紙のカテゴリーをタップする

- 「ギャラリー」をタップした場合は、写真選択画面が表示されます。いずれかのフォルダーをタップし、壁紙として使用する画像をタップして選択してください。続けて、画面に表示された枠をドラッグすることで壁紙として使用する部分を選択し、「OK」をタップしてください。
- 「ライブ壁紙」をタップした場合は、ライブ壁紙の一覧が表示されます。いずれかのライブ壁紙をタップして選択した後、「壁紙に設定」をタップしてください。壁紙の種類によっては、「設定」をタップすると、ライブ壁紙の設定を行うことができます。
- 「壁紙」をタップした場合は、壁紙の一覧が表示されます。続けて、壁紙として使用する画像をタップしてください。

ホーム画面にその他を追加する

1 ホーム画面で、＋をタップする

2 「その他」

3 追加するその他のアイコンをホーム枠にドラッグし、移動先で指を離す

ホーム画面のアイコンを削除する

1 ホーム画面で、ショートカットアイコン、またはウィジェットを１秒以上タッチする

2 そのまま「削除」に移動して指を離す

検索する

「Google検索」ウィジェットを利用すると、FOMA端末内の連絡先やアプリケーション、ウェブページなどを対象として検索できます。
なお、検索データの種類、検索範囲を変更することもできます。

文字を入力して検索する

1 ホーム画面で検索ウィジェットの検索ボックスをタップする
2 検索する文字を入力
3 リストのいずれかをタップする

音声で検索する

1 ホーム画面で検索ウィジェットの をタップする
2 「お話しください」と表示されたら、マイクに向かって検索語をはっきりと発音する
3 リストのいずれかをタップする

検索の設定を行う

1 ホーム画面で検索ウィジェットの検索ボックスをタップする
2 ▶「検索設定」
3 必要に応じて設定を変更する

アプリケーション画面

アプリケーション画面には、本FOMA端末にインストールされているすべてのアプリケーションのアイコンが表示され、タップすることでアプリケーションを開くことができます。

アプリケーション画面からアプリケーションを開く

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」
2 アイコンをタップする

アプリケーション一覧

	3Dビデオカメラ	3D動画の撮影ができます。(P42)
	3Dプレイヤー	FOMA端末に保存されている3D動画を再生できます。3D動画を見るには、別途市販の赤青のアナグリフ式メガネが必要です。(P43)
	Catalyst Mobile Reader	Office文書の閲覧ができます。 ※ CATALYST MOBILE® Readerはカタリスト・モバイル株式会社の製品です。
	Gmail	Googleアカウントのメールの送受信ができます。(P38)
	Google検索	FOMA端末内の連絡先やアプリケーション、ウェブページなどを対象として検索できます。

	Latitude	地図上で友だちと位置を確認しあったり、ステータスメッセージを共有したりできます。また、メールを送ったり、友だちの現在地への経路が検索できます。
	LG World	多様なアプリケーションとドラマおよびバラエティ番組などの動画コンテンツをご利用いただけます。
	Movie Studio	FOMA端末に保存している複数の写真や動画を並べて一つの動画として編集できます。YouTube上にアップロードすることも可能です。
	Twonky Mobile Special	スマートフォン内やインターネット上の動画・写真・音楽を、DLNA対応のTVやオーディオにワイヤレス再生することができます。インターネット上のコンテンツをご利用になる場合には、インターネットへ接続可能なアクセスポイントが必要です。
	YouTube	YouTubeの動画を再生したり、撮影した動画をYouTubeにアップロードすることができます。
	エリアメール	緊急速報「エリアメール」の受信と、受信したエリアメールの確認ができるアプリです。（P39）
	カメラ	静止画（写真）および動画を撮影できます。（P40）
	カレンダー	カレンダーを表示したり、スケジュールを管理したりできます。
	ギャラリー	静止画（写真）および動画を閲覧できます。（P43）
	ダウンロード	ダウンロードしたデータを確認、表示、または再生できます。
	トーク	Googleアカウントを所有する友だちとチャット（文字によるおしゃべり）ができます。（P39）
	ドコモマーケット	ｉモードで利用できたコンテンツをはじめ、スマートフォンならではの楽しく便利なコンテンツを簡単に探せる「dメニュー」へのショートカットアプリです。
	ナビ	目的地までの経路の案内を音声ガイダンスでできます。
	ブラウザ	ウェブページが閲覧できます。（P39）
	プレイス	現在地の近くのレストランや、カフェ、居酒屋、観光スポット、ATM、ガソリンスタンドなどを簡単に探すことができます。
	マーケット	Androidマーケットを利用して、便利なアプリケーションや楽しいゲームに直接アクセスして、FOMA端末にダウンロード、インストールすることができます。（P32）
	マップ	現在地の表示、別の場所の検索、および経路の検索ができます。
	メール	パソコンと同様にメールの送受信ができます。（P38）
	音楽	FOMA端末に保存されている音楽を再生できます。（P44）

	音声検索	音声で入力して検索できます。
	楽天オークション	楽天オークションに出品されている、人気のファッションアイテムなどが簡単に検索できます。
	時計	アラームの設定ができます。
	取扱説明書	本FOMA端末の取扱説明書です。説明から使いたい機能を直接起動することもできます。（表紙裏）
	設定	各種設定を行うことができます。（P37）
	電卓	四則演算などができます。
	連絡先	連絡先（電話帳）を登録したり、登録した連絡先から簡単に電話やメールをしたりできます。

お知らせ

- このアプリケーション一覧は、お買い上げ時にプリインストールされているものです。
- ソフトウェア更新を行うと、アプリケーションの内容やアイコンの位置が変わることがあります。
- アプリケーションによっては、アイコンの下に名前が最後まで表示されない場合があります。

Androidマーケット

Androidマーケットを利用すると、便利なアプリケーションや楽しいゲームに直接アクセスして、FOMA端末にダウンロード、インストールすることができます。

Androidマーケットを開く

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「マーケット」

2 「同意する」

文字入力

本FOMA端末では、タッチスクリーンに表示されるソフトウェアキーボードで文字を入力することができます。

ソフトウェアキーボードでの文字入力

画面上のテキストボックスをタップすると、タッチスクリーンにソフトウェアキーボードが表示されます。本FOMA端末の日本語入力では、フルキーソフトウェアキーボードが使用できます。

ひらがな漢字／半角英字入力

日本語を入力したり、英字を入力したりする場合に使用します。

全角数字／半角数字入力

全角数字を入力したり、半角数字を入力したりする場合に使用します。

お知らせ

- ここではiWnn IME（日本語キーボード）のソフトウェアキーボードについて説明しています。キー表示は入力画面や文字種により変わります。
- ソフトウェアキーボードの種類を切り替える方法については、「入力（キーボード）を切り替える」（P33）をご参照ください。

ソフトウェアキーボードで入力する

[文字 全123] などアイコンをタップすると、文字種の変更など、入力操作の切り替えができます。

入力（キーボード）を切り替える

1 ソフトウェアキーボードで [ABC] ／ [.?123] をタップする

入力（文字種）を切り替える

文字入力画面で [文字 全123] をタップするたびに文字種が切り替わります。また、[文字 全123] を1秒以上タッチすると「iWnn IMEメニュー」が表示され、「入力モード切替」をタップすると入力モードを切り替えることができます。

- ひらがな漢字／半角英字の場合は、「ひらがな漢字」▶「半角英字」の順に文字種が切り替わります。
- 全角数字／半角数字の場合は、「全角数字」▶「半角数字」の順に文字種が切り替わります。

記号／顔文字を入力する

文字入力画面で 記号 をタップすると、記号／顔文字入力モードになりディスプレイに記号または顔文字の候補が表示されます。
「記号」をタップすると記号、「顔文字」をタップすると顔文字の入力候補が表示されます。入力候補をタップすると、記号または顔文字が入力できます。
「戻る」をタップすると、記号または顔文字入力前のソフトウェアキーボードが表示されます。

文字入力の設定を変更する

文字入力画面で 文字 を1秒以上タッチすると「iWnn IMEメニュー」が表示されます。ここで「各種設定」をタップすると、文字入力に関する設定が変更できます。

ロック／セキュリティ

暗証番号とドコモUIMカードの保護について

本FOMA端末を便利で安全にお使いいただくため、本FOMA端末をロックするためのコードやネットワークサービスでお使いになるネットワーク暗証番号などが設定できます。用途に応じて上手に使い分けて、本FOMA端末をご活用ください。

お知らせ

- 設定する暗証番号は「生年月日」「電話番号の一部」「所在地番号や部屋番号」「1111」「1234」など容易に推測できる番号は避けてください。また、設定した暗証番号はメモを取るなどしてお忘れにならないようお気をつけください。
- 暗証番号は他人に知られないように十分ご注意ください。万が一暗証番号が他人に悪用された場合、その損害については、当社は一切の責任を負いかねます。
- 暗証番号を忘れてしまった場合は、運転免許証など契約者ご本人であることが確認できる書類や本FOMA端末、ドコモUIMカードをドコモショップ窓口までご持参いただく必要があります。詳しくは本書裏面の「総合お問い合わせ先」までご相談ください。
- PINロック解除コードは、ドコモショップでご契約時にお渡しする契約申込書（お客様控え）に記載されています。ドコモショップ以外でご契約されたお客様は、運転免許証など契約者ご本人であることが確認できる書類とドコモUIMカードをドコモショップ窓口までご持参いただくか、本書裏面の「総合お問い合わせ先」までご相談ください。

ネットワーク暗証番号

ドコモショップまたはドコモ インフォメーションセンターでのご注文受付時に契約者ご本人を確認させていただく際や各種ネットワークサービスご利用時などに必要な数字4桁の番号です。ご契約時に任意の番号を設定いただきますが、お客様ご自身で番号を変更できます。パソコン向け総合サポートサイト「My docomo」の「docomo ID／パスワード」をお持ちの方は、パソコンで新しいネットワーク暗証番号への変更手続きができます。

お知らせ

- 「My docomo」については、本書裏面の裏側をご覧ください。

PINコード

ドコモUIMカードには、PINコードという暗証番号を設定できます。この暗証番号は、ご契約時は「0000」に設定されていますが、お客様ご自身で番号を変更できます。
PINコードは、第三者による無断使用を防ぐため、ドコモUIM カードをFOMA端末に差し込むたびに、またはFOMA端末の電源を入れるたびに使用者を確認するために入力する4～8桁の暗証番号です。PINコードを入力することにより、端末操作が可能となります。

お知らせ

- 新しくFOMA端末を購入されて、現在ご利用中のドコモUIMカードを差し替えてお使いになる場合は、以前にお客様が設定されたPINコードをご利用ください。設定を変更されていない場合は「0000」となります。
- PINコードの入力を3回連続して間違えると、PINコードがロックされて使えなくなります。この場合は、「PINロック解除コード」でロックを解除してください。

PINロック解除コード（PUKコード）

PINロック解除コードは、PINコードがロックされた状態を解除するための8桁の番号です。なお、PINロック解除コードはお客様ご自身では変更できません。

- PINロック解除コードの入力を10回連続して間違えると、ドコモUIMカードがロックされます。その場合は、ドコモショップにお問い合わせください。

ドコモUIMカードのPINを有効にする

1. ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「現在地情報とセキュリティ」
2. 「SIMカードロック設定」
3. 「SIMカードをロック」
4. PINコードを入力して「OK」
   - 「SIMカードをロック」にチェックマークが付きます。

PINコードを変更する

1. ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「現在地情報とセキュリティ」
2. 「SIMカードロック設定」
3. 「SIM PINの変更」
4. すでに設定されているPINコードを入力して「OK」
5. 新たに設定するPINコードを入力して「OK」
6. 手順5で入力したものと同じPINコードを入力して「OK」

PINコードを入力する

本ＦＯＭＡ端末の電源を入れたときにＰＩＮコードの入力が求められたら、以下のように操作します。

1 ドコモUIMカードのPINコードを入力して「OK」

ドコモUIMカードのPUKロックを解除する

ＰＩＮコードの入力を３回連続間違えてＰＩＮコードがロックされた場合は、以下のように操作します。

1 電源を入れて以下の画面が表示されたら、音量キー（右）を５秒以上押す

2 PINロック解除コードを入力して「OK」

3 新たに設定するPINコードを入力して「OK」

4 手順３で入力したものと同じPINコードを入力して「OK」

各種設定

設定メニュー

本FOMA端末では、ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」をタップすると、さまざまな設定を行う「設定」画面が表示されます。ここで表示されるメニューは以下の通りです。

無線とネットワーク	各種ネットワークに関する設定を行います。
音	音量などの設定を行います。
画面	画面の明るさやアニメーションなど表示に関する設定を行います。
現在地情報とセキュリティ	GPSや画面ロック、タブレットの暗号化、パスワードの設定などを行います。
アプリケーション	アプリケーションに関する設定を行います。
アカウントと同期	アカウントおよび同期に関する設定を行います。
バックアップと復元	Googleサーバーを利用してバックアップや復元の設定を行ったり、FOMA端末内のすべてのデータを消去します。
ストレージ	内部ストレージの空き容量表示などを行います。
言語と入力	本FOMA端末の使用言語やキーボードの設定を行います。
ユーザー補助	ユーザー補助に関するアプリケーションのダウンロード／インストールと設定、およびタッチスクリーンの長押しの時間を設定します。
日付と時刻	日付や時刻に関する設定を行います。
タブレット情報	本FOMA端末に関する各種情報を表示します。

連絡先／メール／インターネット

連絡先

連絡先には、電話番号、Eメールアドレス、インターネット上の各種サービスのアカウントなど連絡先に関わる情報が入力できます。
連絡先を表示して、その連絡先にすばやくアクセスできます。

連絡先を登録する

新たに連絡先を登録できます。

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「連絡先」▶「新規」
- アカウントおよび連絡先が登録されていない場合は、「新しい連絡先を作成」をタップします。

2 情報を入力して「完了」

連絡先を表示する

連絡先に登録されている情報が表示できます。

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「連絡先」

メール

パソコンと同様にメールを送受信できます。一般的なメールのほかMicrosoft Exchange Serverを使用したメールの送受信も行うことができます。

メールを開く

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「メール」

Gmail

Googleアカウントをお持ちの場合は、Gmailを利用してメールを送受信できます。Googleアカウントをお持ちでない場合は、アカウントを取得することで使用できます。

Gmailを開く

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「Gmail」

緊急速報「エリアメール」

気象庁から配信される緊急地震速報を受信することができます。

- エリアメールはお申し込みが不要の無料サービスです。
- 電源が入っていないときや圏外時など、本端末の状態によっては、エリアメールを受信できないことがあります。
- 受信できなかったエリアメールを再度受信することはできません。

エリアメールを受信する

1 エリアメールを自動的に受信する

- エリアメールを受信すると、専用の着信音が鳴り、エリアメールの本文が表示されます。
- キーロックされている場合、エリアメールの本文は表示されません。キーロックを解除すると表示されます。
- 着信音量を変更することはできません。

受信したエリアメールをあとで表示する

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「エリアメール」

2 いずれかのエリアメールをタップする

エリアメールを設定する

エリアメールを受信するかどうかや、着信時の動作などを設定できます。

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「エリアメール」

2 ▶「設定」

3 必要に応じて設定を変更する

ブラウザ

ブラウザを利用することで、パソコンと同じようにウェブページが閲覧できます。

ブラウザを開く

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「ブラウザ」

トーク

Google トークはGoogleのインスタントメッセージプログラムです。Googleアカウントを所有する友だちとチャット（文字によるおしゃべり）ができます。Googleトークを利用するには、Googleアカウントを設定する必要があります。詳しくは「オンラインサービスアカウントを設定する」（P26）をご参照ください。

Google トーク利用の準備

Googleトークを利用するには、ログインとメンバーの追加が必要です。ただし、すでにGoogleアカウントを設定している場合は、サインインなしでご利用になれます。

Google トークにログインする

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「トーク」

- 設定しているGoogleアカウントが表示されます。

マルチメディア

カメラを利用する

本FOMA端末には、カメラが内蔵されており、静止画（写真）や動画が撮影できます。

撮影画面の見かた

静止画／動画撮影画面に表示されるマーク（アイコンなど）の意味は次のとおりです。

■ 静止画撮影画面

■ 動画撮影画面

❶ **ズーム設定**※

⊕ ズームイン
⊖ ズームアウト

❷ **色効果**
画像に特殊な効果をかけて撮影するときに設定します。

❸ **フラッシュモード**

オート※
ON
OFF

❹ **ホワイトバランス**

オート
白熱灯
昼光
蛍光灯
曇り

❺ **シャッター**

❻ **撮影モード**
ポートレイト撮影や夜景撮影など、シーンに応じたモードを設定します。

❼ **カメラ設定**
- 位置情報を記録する：位置情報を取得して静止画に付加します。
- フォーカスモード：オートフォーカスを設定します。
- 露出：撮影するときの露出値を設定します。
- 表示サイズ：撮影する画像サイズを設定します。
- 写真の画質：撮影した静止画を保存するときの画質を設定します。
- ちらつき調整：蛍光灯などの影響による画面のちらつきを軽減する設定をします。
- 初期設定に戻す：カメラ設定を初期化します。

❽ **静止画／動画撮影モードの切り替え**
静止画撮影モード
動画撮影モード

❾ **メインカメラ／インカメラ切り替え**
静止画撮影時
動画撮影時

❿ **プレビュー画面表示**
タップするとプレビュー画面が表示され、撮影した静止画／動画の確認ができます。

⓫ **録画ボタン**

⓬ **動画の画質**
動画撮影時の画質を設定します。

⓭ **低速度撮影の間隔**
低速度で動画撮影する際の間隔を設定します。

※ 動画撮影の場合は使用できません。

静止画を撮影する

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「カメラ」
- アイコンをタップして必要な項目を設定することができます。

2 カメラを被写体に向ける

3

動画を撮影する

カメラでは、モードを切り替えることで動画撮影もできます。

1 静止画撮影画面で を右から左へドラッグする
- アイコンをタップして必要な項目を設定することができます。

2 カメラを被写体に向ける

3

4

3Dビデオカメラを利用する

本FOMA端末で3D動画を撮影して楽しむことができます。

撮影画面の見かた

❶ **3Dモード**
3Dカメラの表示モードを選択します。

❷ **奥行き調整**
3D動画撮影時の奥行きを調整します。

❸ **設定**
ホワイトバランスやビデオ画質、音声録音の可否を設定します。

❹ **3Dビデオカメラヘルプ**
3D動画撮影時の注意事項や安全に関する情報、3D動画の観賞方法などについて説明します。

❺ **プレビュー画面表示**
タップするとプレビュー画面が表示され、撮影した3D動画の確認ができます。

❻ **録画ボタン**

3D動画を撮影する

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「3Dビデオカメラ」
- アイコンをタップして必要な項目を設定することができます。

2 カメラを被写体に向ける

3 ◉

4 ◙

静止画や動画を表示する

ギャラリーで静止画や動画を見る

ギャラリーでは、静止画をスライドショーで表示したり、編集することができます。

静止画や動画を見る

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「ギャラリー」

2 「Camera」をタップする

- 「アルバム別」をタップすると、アルバム別／時間別／地域別／タグ別／サイズ別ごとの表示に切り替わります。
- 「画像と動画」をタップすると、画像と動画／画像のみ／動画のみごとの表示に切り替わります。

3 いずれかのサムネイルをタップする

- 静止画の場合、タッチスクリーンをピンチアウト／ピンチインすることで画像を拡大／縮小することができます。
- 動画の場合、▷ をタップすると動画が再生され、◫ をタップすると動画が停止します。

お知らせ

- 「3DVideo」フォルダー内の動画は左右分割の状態で再生可能ですが、3D動画として見ることはできません。

3Dプレイヤーで3D動画を見る

FOMA端末に保存されている3D動画を簡単に再生できます。3D動画を見るには、別途市販の赤青のアナグリフ式メガネが必要です。

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「3Dプレイヤー」

2 いずれかの3D動画をタップする

テレビで静止画や動画を見る

本FOMA端末とテレビを市販のHDMIケーブルで接続すると、FOMA端末に保存された静止画や動画をテレビに表示できます。また、3D対応のテレビの場合、本FOMA端末で撮影した3D動画を楽しむことができます。

- サイドバイサイド方式かつＨＤＭI1.4対応の3D対応テレビが必要です。

音楽を利用する

音楽を使用して、本FOMA端末に保存した音楽を再生できます。操作方法などについて、詳しくはFOMA端末内の「取扱説明書閲覧ソフト（eトリセツ）」をご参照ください。

ファイル管理

ファイル操作について

FOMA端末とパソコンをUSBデータケーブル（試供品）で接続して、パソコンの「Windows Media Player」と音楽などのデータを同期したり、ドラッグ&ドロップでパソコンとFOMA端末でデータをやりとりしたりできます。
一部の著作権で保護されたデータのやりとりは許可されない場合があります。

- 本FOMA端末をパソコンに認識させるには、専用のドライバおよびWindows Media Player 11以上が必要です。
  - 専用ドライバのダウンロードや操作方法、その他詳細については、下記のホームページを参照してください。
    http://www.lg.com/jp/mobile-phones/download-page/index.jsp
  - 最新版のWindows Media Playerは、Microsoftのウェブサイトからダウンロードできます。
    http://windows.microsoft.com/ja-JP/windows/downloads/windows-media-player
- FOMA端末とパソコンを接続中に、動画の撮影や再生など一部の機能が使用できない場合があります。

お知らせ

- ファイル操作に必要なパソコン側の動作環境は次のとおりです。
  - OS※：Windows 7 ／ Windows Vista ／ Windows XP（Service Pack 3以降）
  - Windows Media Player：Windows Media Player 11以上

  ※ OSのアップグレードや追加・変更した環境での動作は保証いたしかねます。
- パソコンでFOMA端末内のファイルを操作するには、FOMA端末とパソコン以外に次の機器、およびソフトウェアが必要です。
  - USBデータケーブル（試供品）
  - 専用のドライバ

  USBケーブルは、専用のUSBデータケーブル（試供品）をご使用ください。パソコンのUSBケーブルはコネクタ部分の形状が異なるため使用できません。

FOMA端末内のフォルダーについて

FOMA端末とパソコンを接続すると、FOMA端末が「L-06C」という名前で認識されます。その中に、Device Storageというフォルダーがあります。FOMA端末からはDevice Storageを表示させることはできません。
FOMA端末のカメラで撮影した静止画や動画を保存したときや、インターネットから画像、音楽などのデータをダウンロードしたときなど、そのファイルに対応したフォルダーがFOMA端末のDevice Storageに自動的に作成されます。

- FOMA端末とパソコンの接続方法について、詳しくは「FOMA端末とパソコンを接続する」（P46）をご参照ください。

お知らせ

- パソコンのWindows Media Playerと音楽データを同期した場合、音楽データはDevice StorageのMusicフォルダーに保存されます。
- パソコンなど他の機器からFOMA端末のDevice Storageに保存したデータは、FOMA端末で表示、再生できない場合があります。また、FOMA端末からパソコンに保存したデータは、他の機器で表示、再生できない場合があります。

Bluetooth通信

本FOMA端末とBluetoothデバイスをワイヤレスで接続し、データをやりとりできます。

Bluetooth機能をONにしてFOMA端末を検出可能にする

1. ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「無線とネットワーク」▶「Bluetooth設定」
2. 「Bluetooth」にチェックマークを付ける
3. 「端末名」をタップして端末名を入力▶「OK」
4. 「検出可能」にチェックマークを付ける
5. 「検出可能時間のタイムアウト」▶「2分」／「5分」／「1時間」／「なし」のいずれかをタップする
   - 設定した検出可能時間内で、FOMA端末が別のBluetoothデバイスから検出可能になります。
   - 「なし」を選択した場合、FOMA端末は常に別のBluetoothデバイスから検出可能な状態になります。

お知らせ

- Bluetooth機能を使用しないときは、電池の減りを防ぐため、Bluetooth機能をOFFにしてください。
- Bluetooth機能のON／OFF設定は、電源を切っても変更されません。

他のBluetoothデバイスとペアリング／接続する

FOMA端末と他のBluetoothデバイスをBluetooth機能で接続し、データのやりとりを行うには、あらかじめ他のデバイスとペアリング（ペア設定）を行い、本FOMA端末に登録後、接続を行います。

1 ホーム画面で「アプリ」▶「すべて」▶「設定」▶「無線とネットワーク」▶「Bluetooth設定」▶「付近のデバイスの検索」

- 検出されたBluetoothデバイスの一覧画面が表示されます。

2 接続したいデバイスをタップする

- Bluetoothデバイスにパスキー（PIN）が設定されている場合、パスキー（PIN）を入力して「OK」をタップしてください。
- Bluetoothデバイスによっては、デバイスをタップするとペアリング完了後、続けて接続まで行う場合があります。その場合、Bluetoothデバイス名の下に「接続」と表示されます。

お知らせ

- ペアリング時にパスキー（PIN）が必要なデバイスの場合も一度ペアリングを行うと、次回の接続時にはパスキー（PIN）の入力は不要になります。
- プロファイル非対応の場合など、接続できないデバイスの場合は、ペアリング設定は可能ですが、デバイス名をタップしても接続できません。

他のデバイスからペアリング要求を受けた場合

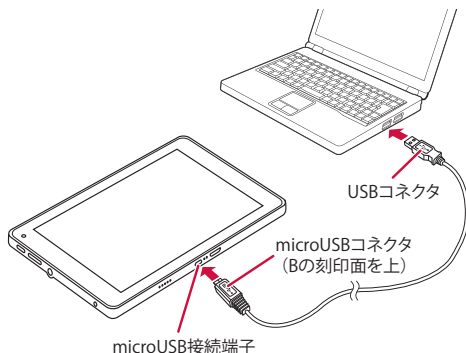
Bluetooth通信のペアリングを要求する画面が表示された場合、「ペア設定する」をタップするか、必要な場合は、パスキー（PIN）を入力して「OK」をタップしてください。

外部機器接続

FOMA端末とパソコンを接続する

ご使用のパソコンに専用のドライバやWindows Media Player 11以上が入っていることを確認してください。専用のドライバやWindows Media Player 11以上が入っていないと、FOMA端末がパソコンに正常に認識されない可能性があります。詳しくは、「ファイル操作について」（P44）をご参照ください。

1 USBデータケーブル（試供品）のmicroUSBコネクタをFOMA端末のmicroUSB接続端子に差し込む

- microUSBコネクタは、Bの刻印がある面を上にして水平に差し込んでください。

2 USBデータケーブルのUSBコネクタをパソコンのUSBポートに差し込む

- FOMA端末が自動で認識されます。
- 設定により「自動再生」画面が表示されることがあります。画面が表示されたら、「デバイスを開いてファイルを表示する」を選択してください。

3 パソコン側で「マイ コンピュータ」を開き、「L-06C」▶「Device Storage」を選択する

- FOMA端末内のフォルダー一覧が表示されます。

4 FOMA端末とパソコンの間で、データをドラッグ＆ドロップする

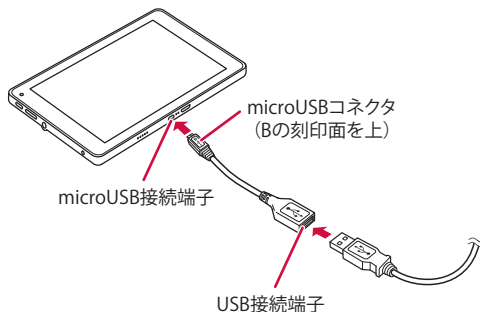
お知らせ

- データの読み込みや書き込み中に、FOMA端末の電源を切らないでください。
- データの読み込みや書き込み中に、USBデータケーブルを抜かないでください。データ消失などの原因となります。
- Windows Media Playerについて、詳しくはWindows Media Playerのヘルプをご参照ください。

FOMA端末と他のUSB機器を接続する

付属のmicroUSB-USB A変換アダプタ L01に接続することで、標準型のUSBキーボード、マウス、ジョイスティック（PC用）、PTP方式のデジタルカメラなどを利用することができます。その他のUSBデバイスはFOMA端末で正常に機能しない場合があります。

1 接続するUSBデバイスのUSBコネクタをmicroUSB-USB A変換アダプタ L01のUSB接続端子に差し込む

- USBコネクタとmicroUSB-USB A変換アダプタL01の刻印のある面を合わせて水平に差し込んでください。

2 microUSB-USB A変換アダプタ L01のmicroUSBコネクタをFOMA端末のmicroUSB接続端子に差し込む

- microUSBコネクタは、Bの刻印がある面を上にして水平に差し込んでください。

3 以降の操作については、接続するUSBデバイスの取扱説明書をご覧ください

付録

オプション・関連機器のご紹介

FOMA端末にさまざまな別売りのオプション機器を組み合わせることで、パーソナルからビジネスまでさらに幅広い用途に対応できます。なお、地域によってはお取り扱いしていない商品もあります。
詳しくは、ドコモショップなど窓口へお問い合わせください。また、オプションの詳細については各機器の取扱説明書などをご覧ください。

- リアカバー L23
- ACアダプタ L01※
- microUSB-USB A変換アダプタ L01
- ドッキングステーション L01
- チルト式レザーケース L01

※ ACアダプタの充電方法について→P18

トラブルシューティング（FAQ）

故障かな？と思ったら

- まずはじめに、ソフトウェアを更新する必要があるかをチェックして、必要な場合にはソフトウェアを更新してください。（ソフトウェア更新→P54）
- 気になる症状のチェック項目を確認しても症状が改善されないときは、本書裏面の「故障お問い合わせ先」または、ドコモ指定の故障取扱窓口までお気軽にご相談ください。

カテゴリ	症　状	チェック
電源	FOMA端末の電源が入らない	• 電池切れになっていませんか。
充電	充電ができない	• ACアダプタ L01の電源プラグがコンセントに正しく差し込まれていますか。 • ACアダプタ L01をご使用の場合、ACアダプタのコネクタがFOMA端末またはドッキングステーション L01（別売）に正しく接続されていますか。 • ドッキングステーション L01をご使用の場合、FOMA端末のドッキングステーション端子は汚れていませんか。汚れたときは、端子部分を乾いた綿棒などで拭いてください。 • 充電しながら通信、その他機能の操作を長時間行うと、FOMA端末の温度が上昇して電池の状態アイコンが充電中にならない場合があります。その場合は、FOMA端末の温度が下がってから再度充電を行ってください。
	画面に「充電してください」と表示される	• 電池残量が少ない場合は充電してください。 →P18

カテゴリ	症　状	チェック
端末操作	操作中・充電中に熱くなる	• 操作中や充電中、また、充電しながら動画撮影などを長時間行った場合などには、FOMA端末や内蔵電池、アダプタが温かくなることがありますが、安全上問題ありませんので、そのままご使用ください。
	電池の使用時間が短い	• 圏外の状態で長時間放置されるようなことはありませんか。圏外時は通信可能な状態にできるよう電波を探すため、より多くの電力を消費しています。 • 内蔵電池の使用時間は、使用環境や劣化度により異なります。 • 内蔵電池は消耗品です。充電を繰り返すごとに、1回で使える時間が次第に短くなっていきます。 十分に充電しても購入時に比べて使用時間が極端に短くなった場合は、本書裏面の「故障お問い合わせ先」または、ドコモ指定の故障取扱窓口までお問い合わせください。
	電源断・再起動が起きる	• 本書裏面の「故障お問い合わせ先」または、ドコモ指定の故障取扱窓口までお問い合わせください。

カテゴリ	症　状	チェック
端末操作	キーを押しても動作しない	• 画面ロックを設定していませんか。→P37
	キーを押したときの画面の反応が遅い	• FOMA端末に大量のデータが保存されているときや、FOMA端末内で容量の大きいデータを処理しているときなどに起きる場合があります。
	ドコモUIMカードが認識しない	• ドコモUIMカードを正しい向きで挿入していますか。→P17
	時計がずれる	• 長い間電源を入れた状態にしていると時計がずれる場合があります。 「日付と時刻の自動設定」と「タイムゾーンを自動設定」にチェックマークが付いているかを確認し、電波のよい場所で電源を入れ直してください。

カテゴリ	症　状	チェック
端末操作	端末動作が不安定	• ご購入後に端末へインストールしたアプリケーションによる可能性があります。セーフモードで起動して症状が改善される場合には、インストールしたアプリケーションをアンインストールすることで症状が改善される場合があります。 ※ セーフモードとはご購入時の状態に近い状態で起動させる機能です。 • セーフモードの起動方法 電源がOFFの状態から電源ボタンを押し、docomoロゴ画面が表示されている間、音量キー（右）を押し続けてください。 ※ セーフモードが起動するとホーム画面の左下端に「セーフモード」と表示されます。 ※ セーフモードを終了するには、電源を一度OFFにし起動し直してください。 • 必要なデータを事前にバックアップした上でセーフモードをご利用ください。 • お客様ご自身で作成されたウィジェットが消える場合があります。 • セーフモードは通常の起動状態ではないため、通常ご利用になる場合には、セーフモードを終了しご利用ください。

カテゴリ	症　状	チェック
画面	ディスプレイが暗い	• 画面バックライト消灯時間を設定していませんか。→P37 • 画面の明るさ調整を変更していませんか。→P37 • 電池残量が少なくなっていませんか。
カメラ	カメラで撮影した静止画や動画がぼやける	• カメラのレンズにくもりや汚れが付着していないかを確認してください。

カテゴリ	症　状	チェック
海外利用	海外でFOMA端末が使えない	**■アンテナマークが表示されている場合** ・WORLD WINGのお申し込みをされていますか。 ・WORLD WINGのお申し込み状況をご確認ください。 **■圏外が表示されている場合** ・国際ローミングサービスのサービスエリア外か、電波の弱い所にいませんか。 利用可能なサービスエリアまたは海外通信事業者かどうか、「ご利用ガイドブック（国際サービス編）」またはドコモの「国際サービスホームページ」で確認してください。 ・ネットワークの設定や海外通信事業者の設定を変更してみてください。 -「2Gネットワークのみ使用」のチェックマークを外す -「通信事業者」を「自動選択」に設定する ・FOMA端末の電源を「OFF」にした後、再び「ON」にすることで回復することがあります。
	海外でデータ通信ができない	・データローミング設定をONにしてください。
海外利用	海外で利用中に、突然FOMA端末が使えなくなった	・利用停止目安額を超えていませんか。 「国際ローミングサービス(WORLD WING)」のご利用には、あらかじめ利用停止目安額が設定されています。利用停止目安額を超えてしまった場合、ご利用累積額を精算してください。
データ管理	データ転送が行われない	・USB HUBを使用していませんか。USB HUBを使用すると、正常に動作しない場合があります。
	画像表示しようとすると「×」が表示されるまたはデモプレビューで「×」が表示される	・画像データが壊れている場合は「×」が表示される場合があります。
Bluetooth機能	Bluetooth通信対応機器と接続ができない／サーチしても見つからない	・Bluetooth通信対応機器（市販品）側を機器登録待ち受け状態にしてから、FOMA端末側から機器登録を行う必要があります。登録済みの機器を削除して再度機器登録を行う場合には、Bluetooth通信対応機器（市販品）、FOMA端末双方で登録した機器を削除してから機器登録を行ってください。→P46

エラーメッセージ

エラーメッセージ	説　明
通信サービスなし	• サービスエリア外か、電波の届かない場所にいるため利用できません。電波の届く場所まで移動してください。 • ドコモUIMカードが正しく機能していません。ドコモUIMカードを抜き差ししても改善しない場合は、本書裏面の「故障お問い合わせ先」にご連絡の上、ご相談ください。
SIMカードがロックされています	• PINコード（P35）を正しく入力してください。
ユーザーガイドを参照するか、お客様サポートにお問い合わせください	• PUK（PINロック解除コード）（P35）を正しく入力してください。
メモリ不足です	• 空き容量がありません。不要なアプリケーションを削除して容量を確保してください。

保証とアフターサービス

保証について

- FOMA端末をお買い上げいただくと、保証書が付いていますので、必ずお受け取りください。記載内容および「販売店名・お買い上げ日」などの記載事項をお確かめの上、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げいただいた販売店へお申し付けください。無料保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
- この製品は付属品を含め、改良のため予告なく製品の全部または一部を変更することがありますので、あらかじめご了承ください。
- FOMA端末の故障・修理やその他お取り扱いによって電話帳（連絡先）などに登録された内容が変化・消失する場合があります。万が一に備え、電話帳（連絡先）などの内容はメモなどに控えをお取りくださるようお願いします。

アフターサービスについて

調子が悪い場合は

修理を依頼される前に、本書の「故障かな？と思ったら」をご覧になってお調べください。それでも調子が良くないときは、本書裏面の「故障お問い合わせ先」にご連絡の上、ご相談ください。

お問い合わせの結果、修理が必要な場合

ドコモ指定の故障取扱窓口にご持参いただきます。ただし、故障取扱窓口の営業時間内の受付となります。また、ご来店時には必ず保証書をご持参ください。なお、故障の状態によっては修理に日数がかかる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

■ 保証期間内は

- 保証書の規定に基づき無料で修理を行います。
- 故障修理を実施の際は、必ず保証書をお持ちください。保証期間内であっても保証書の提示がないもの、お客様のお取り扱い不良（液晶・コネクタなどの破損）による故障・損傷などは有料修理となります。
- ドコモの指定以外の機器および消耗品の使用に起因する故障は、保証期間内であっても有料修理となります。

■ 以下の場合は、修理できないことがあります

- 故障取扱窓口にて水濡れと判断した場合（例：水濡れシールが反応している場合）
- お預かり検査の結果、水濡れ、結露・汗などによる腐食が発見された場合や内部の基板が破損・変形していた場合（外部接続端子（イヤホンマイク端子）・液晶などの破損や筐体亀裂の場合においても修理ができない可能性があります）

※ 修理を実施できる場合でも保証対象外になりますので有料修理となります。

■ 保証期間が過ぎたときは

- ご要望により有料修理いたします。

■ 部品の保有期間は

- ＦＯＭＡ端末の補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造打ち切り後４年間を基本としております。ただし、故障箇所によっては修理部品の不足などにより修理できない場合もございますので、あらかじめご了承ください。また、保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能なことがありますので、本書裏面の「故障お問い合わせ先」へお問い合わせください。

お願い

- FOMA端末および付属品の改造はおやめください。
  - 火災・けが・故障の原因となります。
  - 改造が施された機器などの故障修理は、改造部分を元の状態に戻すことをご了承いただいた上でお受けいたします。ただし、改造の内容によっては故障修理をお断りする場合があります。
    以下のような場合は改造とみなされる場合があります。
    - 液晶部やキー部にシールなどを貼る
    - 接着剤などによりFOMA端末に装飾を施す
    - 外装などをドコモ純正品以外のものに交換するなど
  - 改造が原因による故障･損傷の場合は、保証期間内であっても有料修理となります。
- FOMA端末に貼付されている銘版シールは、はがさないでください。銘版シールには、技術基準を満たす証明書の役割があり、銘版シールが故意にはがされたり、貼り替えられた場合など、銘版シールの内容が確認できないときは、技術基準適合の判断ができないため、故障修理をお受けできない場合がありますので、ご注意願います。
- 各種機能の設定などの情報は、ＦＯＭＡ端末の故障・修理やその他お取り扱いによってクリア（リセット）される場合があります。お手数をおかけしますが、この場合は再度設定を行ってくださるようお願いいたします。
- 修理を実施した場合には、故障箇所に関係なく、Wi-Fi用のMACアドレスおよびBluetoothアドレスが変更される場合があります。
- FOMA端末の下記の箇所に磁気を発生する部品を使用しています。キャッシュカードなど磁気の影響を受けやすいものを近づけますとカードが使えなくなることがありますので、ご注意ください。
  使用箇所：スピーカー、マイク部
- FOMA端末が濡れたり湿気を帯びてしまった場合は、すぐに電源を切って、お早めに故障取扱窓口へご来店ください。ただし、FOMA端末の状態によっては修理できないことがあります。

メモリダイヤル（電話帳機能）およびダウンロード情報などについて

- FOMA端末を機種変更や故障修理をする際に、お客様が作成されたデータまたは外部から取り込まれたデータあるいはダウンロードされたデータなどが変化・消失などする場合があります。これらについて当社は一切の責任を負いません。また、当社の都合によりお客様のFOMA端末を代替品と交換することにより修理に代えさせていただく場合がありますが、その際にはこれらのデータなどは一部を除き交換後の製品に移し替えることはできません。

ソフトウェア更新

最新のソフトウェアに更新することで、最新の拡張機能を入手することができます。

お知らせ

- 必ず最新のソフトウェアをご利用ください。
- ソフトウェア更新はデータ接続（3G、またはWi-Fi）を使用して、自動的に更新ファイルのダウンロードを行います。3G経由はパケット通信料が高額になりますので、パケット定額サービスのご利用を強くおすすめします。
- パソコンを用いてのソフトウェア更新はできません。
- モバイルネットワーク接続を使用してFOMA端末からインターネットに接続するとき、データ通信に課金が発生します。
- 更新の前にFOMA端末の中のすべてのデータを確実にバックアップしてください。
- ソフトウェア更新後に初めて起動したときは、データ更新処理のため、数分から数十分間、動作が遅くなる場合があります。所用時間は本FOMA端末内のデータ量により異なります。通常の動作速度に戻るまでは電源を切らないでください。
- 詳しくは、http://www.lg.com/jp/mobile-phones/download-page/index.jspをご覧ください。

OSバージョンアップについて

FOMA端末の品質改善を行うため、ソフトウェア更新によってオペレーティングシステム（OS）のバージョンアップを行うことがあります。最新のOSバージョンでは、各種設定や機能がさらに向上され、また、新しい機能やアプリケーションが追加されることもあります。

ご利用にあたっての注意事項

- OSバージョンアップを行うと、前のバージョンに戻すことはできません。
- 更新ファイルは大容量になり、料金定額サービスに未加入の場合はパケット通信料が高額になりますので、パケット定額サービスまたは定額データプランのご利用を強くおすすめします。
- バージョンアップファイルのダウンロード（通信）は自動で開始されます。本FOMA端末ご購入時には、ドコモショップや量販店などの購入店舗において、発着信のテストなど初期手続きを行う際に、ダウンロード（通信）が開始される可能性があります。
- 古いOSバージョンで使用していたアプリケーションの新しいOSバージョンでの動作は保証いたしかねます。アプリケーションの対応OSなどをご確認の上、OSバージョンアップを行ってください。
- OSバージョンアップはデータを残したまま行うことができますが、万が一のトラブルに備え、大切なデータは必ずパソコンでのバックアップを行ってください。接続方法について、詳しくは「ファイル管理」（P44）、もしくは「外部機器接続」（P46）をご参照ください。また、各種オンラインによるデータバックアップサービスのご利用をおすすめします。
- ダウンロードデータなどコンテンツによっては、著作権保護のためバックアップ／リストアができない場合がありますので、あらかじめご了承ください。なお、お客様データに関して、当社としては一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

- OSバージョンアップを行うと、お客様ご自身でインストールされたアプリケーションが使用できなくなる場合があります。
- OSバージョンアップの前に電池をフル充電してください。
- OSバージョンアップを行う前に、実行中のすべてのアプリケーションを終了してください。
- 日本国外からはOSバージョンアップが行えない場合があります。
- FOMA端末のメモリ空き容量が不足している場合、OSバージョンアップは行えません。不要なアプリケーションを削除して容量を確保してください。
- OSバージョンアップ中は、絶対にFOMA端末の電源を切らないでください。故障の原因となります。
- OSバージョンアップ中は、すべての機能（データ通信を含む）を利用することはできません。
- OSバージョンアップに失敗した場合、一切の操作ができなくなる可能性があります。その場合は、大変お手数ですが、ドコモ指定の故障取扱窓口までお越しいただきますようお願いいたします。
- OSバージョンアップ後はFOMA端末の設定が初期化されます。OSバージョンアップ完了後、再度設定を行ってください。

FCC Radio Frequency (RF) Information

WARNING! Read this information before operating the device.

In August 1996, the Federal Communications Commission (FCC) of the United States, with its action in Report and Order FCC 96-326, adopted an updated safety standard for human exposure to Radio Frequency (RF) electromagnetic energy emitted by FCC regulated transmitters. Those guidelines are consistent with the safety standard previously set by both U.S. and international standards bodies. The design of this device complies with the FCC guidelines and these international standards.

Bodily Contact During Operation

This device was tested for typical use with the back of the device kept 0 inch (0 cm) from the body.

Vehicle-Mounted External Antenna (Optional, if available.)

To satisfy FCC RF exposure requirements, keep 8 inches (20 cm) between the user / bystander and vehicle-mounted external antenna. For more information about RF exposure, visit the FCC website at www.fcc.gov.

Caution

Use only the supplied antenna. Use of unauthorized antennas (or modifications to the antenna) could impair RF quality, damage the device, void your warranty and/or violate FCC regulations. Don't use the device with a damaged antenna. A damaged antenna could cause a minor skin burn. Contact your local dealer for a replacement antenna.

Consumer Information About Radio Frequency Emissions

Your wireless device, which contains a radio transmitter and receiver, emits radio frequency energy during use. The following consumer information addresses commonly asked questions about the health effects of wireless devices.

Are wireless devices safe?

Scientific research on the subject of wireless devices and radio frequency ("RF") energy has been conducted worldwide for many years, and continues. In the United States, the Food and Drug Administration ("FDA") and the Federal Communications Commission ("FCC") set policies and procedures for wireless devices. The FDA issued a website publication on health issues related to cell device usage where it states, "The scientific community at large believes that the weight of scientific evidence does not show an association between exposure to radiofrequency (RF) from cell devices and adverse health outcomes". Still the scientific community does recommend conducting additional research to address gaps in knowledge. That research is being conducted around the world and FDA continues to monitor developments in this field. You can access the joint FDA/FCC website at http://www.fda.gov (under "c" in the subject index, select Cell Devices > Research). You can also contact the FDA toll-free at (888) 463-6332 or (888) INFO-FDA. In June 2000, the FDA entered into a cooperative research and development agreement through which additional scientific research is being conducted. The FCC issued its own website publication stating that "there is no scientific evidence that proves that wireless device usage can lead to cancer or a variety of other problems, including headaches, dizziness or memory loss." This publication is available at http://www.fcc.gov/oet/rfsafety or through the FCC at (888) 225-5322 or (888) CALL-FCC.

What does “SAR” mean?

In 1996, the FCC, working with the FDA, the U.S. Environmental Protection Agency, and other agencies, established RF exposure safety guidelines for wireless devices in the United States. Before a wireless device model is available for sale to the public, it must be tested by the manufacturer and certified to the FCC that it does not exceed limits established by the FCC. One of these limits is expressed as a Specific Absorption Rate, or "SAR." SAR is a measure of the rate of absorption of RF energy in the body. Tests for SAR are conducted with the device transmitting at its highest power level in all tested frequency bands. Since 1996, the FCC has required that the SAR of handheld wireless devices not exceed 1.6 watts per kilogram, averaged over one gram of tissue. Although the SAR is determined at the highest power level, the actual SAR value of a wireless device while operating can be less than the reported SAR value. This is because the SAR value may vary from call to call, depending on factors such as proximity to a cell site, the proximity of the device to the body while in use, and the use of hands-free devices. Before a device model is available for sale to the public, it must be tested and certified to the FCC that it does not exceed the limit established by the government-adopted requirement for safe exposure. The tests are performed in positions and locations (e.g., at the ear and worn on the body) as required by the FCC for each model.

The highest SAR value for this device when worn on the body, as described in this user guide, is 0.80 W/kg. While there may be differences between SAR levels of various devices and at various positions, they all meet the government requirement for safe exposure. The FCC has granted an Equipment Authorization for this model device with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF emission guidelines. SAR information on this model device is on file with the FCC and can be found under the Display Grant section of http://www.fcc.gov/oet/ea/fccid/ after searching on FCC ID BEJL06C. For more information about SARs, see the FCC’s OET Bulletins 56 and 65 at http://www.fcc.gov/Bureaus/Engineering_Technology/Documents/bulletins or visit the Cellular Telecommunications Industry Association website at http://www.ctia.org/consumer_info/index.cfm/AID/10371. You may also wish to contact the manufacturer of your device.

Can I minimize my RF exposure?

If you are concerned about RF, there are several simple steps you can take to minimize your RF exposure. You can, of course, reduce your use time. You can place more distance between your body and the source of the RF, as the exposure level drops off dramatically with distance.
The FDA/FCC website states that "hands-free kits can be used with wireless devices for convenience and comfort". On the other hand, if the device is mounted against the waist or other part of the body during use, then that part of the body will absorb more RF energy. Wireless devices marketed in the U.S. are required to meet safety requirements regardless of whether they are used against the head or against the body. Either configuration should result in compliance with the safety limit."

Do wireless devices pose any special risks to children?

The FDA/FCC website states that "the scientific evidence does not show a danger to users of wireless communication devices, including children." The FDA/FCC website further states that "some groups sponsored by other national governments have advised that children be discouraged from using wireless devices at all". For example, the Stewart Report from the United Kingdom ["UK"] made such a recommendation in December 2000. In this report a group of independent experts noted that no evidence exists that using a cell device causes brain tumors or other ill effects. The UK's recommendation to limit cell device use by children was strictly precautionary; it was not based on scientific evidence that any health hazard exists. A copy of the UK's leaflet is available at http://www.dh.gov.uk (search "mobile"), or you can write to: NRPB, Chilton, Didcot, Oxon OX11 0RQ, United Kingdom. Copies of the UK's annual reports on mobile devices and RF are available online at www.iegmp.org.uk and http://www.hpa.org.uk/radiation/ (search "mobile"). Parents who wish to reduce their children's RF exposure may choose to restrict their children's wireless device use.

Where can I get further information about RF emissions?

For further information, see the following additional resources (websites current as of April 2005):

U.S. Food and Drug Administration
FDA Consumer magazine
November-December 2000
Telephone: (888) INFO-FDA
http://www.fda.gov (Under "c" in the subject index, select Cell Devices > Research.)

U.S. Federal Communications Commission
445 12th Street, S.W.
Washington, D.C. 20554
Telephone: (888) 225-5322
http://www.fcc.gov/oet/rfsafety

Independent Expert Group on Mobile Devices
http://www.iegmp.org.uk

Royal Society of Canada Expert Panels on Potential
Health Risks of Radio Frequency Fields from Wireless
Telecommunication Devices
283 Sparks Street
Ottawa, Ontario K1R 7X9
Canada
Telephone: (613) 991-6990

World Health Organization
Avenue Appia 20
1211 Geneva 27
Switzerland
Telephone: 011 41 22 791 21 11
http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs193/en/

International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection
c/o Bundesamt fur Strahlenschutz
Ingolstaedter Landstr. 1
85764 Oberschleissheim
Germany
Telephone: 011 49 1888 333 2156
http://www.icnirp.de

American National Standards Institute
1819 L Street, N.W., 6th Floor
Washington, D.C. 20036
Telephone: (202) 293-8020
http://www.ansi.org

National Council on Radiation Protection and Measurements
7910 Woodmont Avenue, Suite 800
Bethesda, MD 20814-3095
Telephone: (301) 657-2652
http://www.ncrponline.org

Engineering in Medicine and Biology Society, Committee on
Man and Radiation (COMAR) of the Institute of Electrical and Electronics Engineers
http://ewh.ieee.org/soc/embs/comar/

FCC Compliance Statement

FCC Part 15 Class B Compliance

This device and its accessories comply with part 15 of FCC rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device and its accessories may not cause harmful interference, and (2) this device and its accessories must accept any interference received, including interference that causes undesired operation.

Part 15.21 statement

Any changes or modifications not expressly approved by the manufacturer could void the user's authority to operate the equipment.

Part 15.105 Statement

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Declaration of Conformity

The product "L-06C" is declared to conform with the essential requirements of European Union Directive 1999/5/EC Radio and Telecommunications Terminal Equipment Directive 3.1(a), 3.1(b) and 3.2.
This mobile phone complies with the EU requirements for exposure to radio waves.
Your mobile phone is a radio transceiver. It is designed not to exceed the SAR* (Specific Absorption Rate) limits** for exposure to radio-frequency (RF) energy by European Union Directives. The Max. SAR* value is 0.873 W/kg (10 g) when it is worn on the body. To comply with the RF Exposure limits a distance of greater than 0.5 cm must be maintained from the user's body.
While there may be differences between the SAR* levels of various phones and at various positions, they all meet*** the EU requirements for RF exposure.

---

* The exposure standard for mobile phones employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.

** The SAR limit recommended by the International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection (ICNIRP) is 2W/kg averaged over 10g of tissue.

*** Tests for SAR have been conducted using standard operating positions with the phone transmitting at its highest certified power level in all tested frequency bands. Although the SAR is determined at the highest certified power level, the actual SAR level of the phone while operating can be well below the maximum value. This is because the phone is designed to operate at multiple power levels so as to use only the power required to reach the network. In general, the closer you are to a base station antenna, the lower the power output.

European Union Directives Conformance Statement

CE0168ⓘ **Hereby, LG Electronics Inc. declares that this product is in compliance with:**

- The essential requirements and other relevant provisions of Directive 1999/5/EC
- All other relevant EU Directives

The above gives an example of a typical Product Approval Number.

Important Safety Information

AIRCRAFT
Switch off your wireless device when boarding an aircraft or whenever you are instructed to do so by airline staff. If your device offers a 'flight mode' or similar feature consult airline staff as to whether it can be used on board.

DRIVING
Full attention should be given to driving at all times and local laws and regulations restricting the use of wireless devices while driving must be observed.

HOSPITALS
Mobile phones should be switched off wherever you are requested to do so in hospitals, clinics or health care facilities. These requests are designed to prevent possible interference with sensitive medical equipment.

PETROL STATIONS
Obey all posted signs with respect to the use of wireless devices or other radio equipment in locations with flammable material and chemicals. Switch off your wireless device whenever you are instructed to do so by authorized staff.

INTERFERENCE
Care must be taken when using the phone in close proximity to personal medical devices, such as pacemakers and hearing aids.

Pacemakers
Pacemaker manufacturers recommend that a minimum separation of 15cm be maintained between a mobile phone and a pacemaker to avoid potential interference with the pacemaker. To achieve this use the phone on the opposite ear to your pacemaker and do not carry it in a breast pocket.

Hearing Aids
Some digital wireless phones may interfere with some hearing aids. In the event of such interference, you may want to consult your hearing aid manufacturer to discuss alternatives.

NOTE: Excessive sound and pressure from earphones can causing hearing loss.

For other Medical Devices:
Please consult your physician and the device manufacturer to determine if operation of your phone may interfere with the operation of your medical device.

輸出管理規制

本製品および付属品は、日本輸出管理規制（「外国為替及び外国貿易法」およびその関連法令）の適用を受ける場合があります。また米国再輸出規制（Export Administration Regulations）の適用を受けます。本製品および付属品を輸出および再輸出する場合は、お客様の責任および費用負担において必要となる手続きをお取りください。詳しい手続きについては経済産業省または米国商務省へお問合せください。

知的財産権

著作権・肖像権について

お客様が本製品を利用して撮影またはインターネット上のホームページからのダウンロードなどにより取得した文章、画像、音楽、地図データ、ソフトウェアなど第三者が著作権を有するコンテンツは、私的使用目的の複製や引用など著作権法上認められた場合を除き、著作権者に無断で複製､改変､公衆送信などすることはできません。実演や興行、展示物などには、私的使用目的であっても撮影または録音を制限している場合がありますのでご注意ください。
また、お客様が本製品を利用して本人の同意なしに他人の肖像を撮影したり、撮影した他人の肖像を本人の同意なしにインターネット上のホームページに掲載するなどして不特定多数に公開することは、肖像権を侵害する恐れがありますのでお控えください。

商標について

- 「FOMA」「ｉモード」「ｉアプリ」「spモード」「エリアメール」「WORLD WING」「公共モード」「mopera」「mopera U」「eトリセツ」はNTTドコモの商標または登録商標です。
- Bluetoothとそのロゴマークは、Bluetooth SIG, INC.の登録商標で、株式会社NTTドコモはライセンスを受けて使用しています。その他の商標および名称はそれぞれの所有者に帰属します。

- Wi-Fi Certified®とそのロゴは、Wi-Fi Allianceの登録商標または商標です。

- Microsoft®、Windows®、Windows Vista®、Windows Media®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- GoogleおよびGoogle ロゴ、Android、Androidマーケットおよび Androidマーケット ロゴ、Googleマップ、Google トーク、Googleカレンダー、Gmailおよび Gmail ロゴ、YouTubeおよびYouTube ロゴは、Google, Inc.の商標または登録商標です。
- HDMI（High-Definition Multimedia Interface）は、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- CATALYST MOBILE®はカタリスト・モバイル株式会社の登録商標です。

- その他本文中に記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

その他

- 本製品はAdobe Systems IncorporatedのAdobe® Flash® Playerテクノロジーを搭載しています。
  - Adobe Flash Player Copyright© 1996-2011 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

  - AdobeおよびFlashは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびにその他の国における登録商標または商標です。
- 本書では各OS（日本語版）を次のように略して表記しています。
  - Windows 7は、Microsoft® Windows® 7（Starter、Home Basic、Home Premium、Professional、Enterprise、Ultimate）の略です。
  - Windows Vistaは、Windows Vista®（Home Basic、Home Premium、Business、Enterprise、Ultimate）の略です。
  - Windows XPは、Microsoft® Windows® XP Professional operating systemまたはMicrosoft® Windows® XP Home Edition operating systemの略です。
- 本製品は、MPEG-4 Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされており、お客様が個人的かつ非営利目的において以下に記載する行為に係る個人使用を除いてはライセンスされておりません。
  - MPEG-4 Visualの規格に準拠する動画（以下、MPEG-4ビデオ）を記録する場合
  - 個人的かつ非営利的活動に従事する消費者によって記録されたMPEG-4ビデオを再生する場合
  - MPEG-LAよりライセンスを受けた提供者から入手されたMPEG-4ビデオを再生する場合

  詳細については米国法人MPEG LA, LLCにお問い合わせください。
- 文字変換は、オムロンソフトウェア株式会社のiWnnを使用しています。

  iWnn © OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 2008-2011 All Rights Reserved.

索引

ア

アイコン……27
アカウントと同期……37
アダプタ……10, 14, 18
アフターサービス……52
アプリ……30
アプリケーション……37
暗証番号……34
安全上のご注意……5
医用電気機器……11
ウィジェット……29
エリアメール……39
音……37
オプション品……2, 48
音声検索……30
オンラインサービスアカウント……26
　削除する……26
　手動で同期する……26
　追加する……26

カ

外部機器接続……46
　パソコンと接続する……46
　他のUSB機器を接続する……47
顔文字……34
各部の名称……19
壁紙……29
カメラ……40
　静止画や動画を見る……43
　静止画を撮影する……41
　動画を撮影する……41
画面……37
画面の表示方向を変更する……23
画面表示……27
画面をスクロールする……22
関連機器……48
キーロック……21
記号……34
ギャラリー……43
言語と入力……37
現在地情報とセキュリティ……37
検索……30
ご利用にあたっての注意事項……4

サ

材質一覧……12
充電……18
　ACアダプタで充電する……18
商標……63
ショートカット……29
初期設定……23
ステータスアイコン……27
ステータスバー……27
ストレージ……37
スピーカー……20
設定……37
ソフトウェアキーボード……33
　入力（キーボード）を切り替える……33
ソフトウェア更新……54

タ

タッチスクリーン……21
　利用上の注意……21
タブレット情報……37
チェックマークを付ける／外す……22
知的財産権……63
著作権・肖像権について……63
通知アイコン……27
ディスプレイ……19
テレビで静止画や動画を見る……43
電源を入れる……21
電源を切る……21
トーク……39
ドコモUIMカード……11, 14, 17, 34
　取り付ける……17
　取り外す……18
トラブルシューティング……48
取り扱い上のご注意……13

ナ

ネットワーク暗証番号……35

ハ

パスキー（PIN）……46
バックアップと復元……37
バックライト……21
日付と時刻……37
表示を拡大／縮小する……22
ピンチアウト……22
ピンチイン……22
ファイル操作……44
　Device Storage……45
　Windows Media Player……44
　動作環境……44
　必要な機器……44
ブラウザ……39
　検索する……30
ホーム画面……28
　その他を追加する……29
保証……52
本書の見かた／引きかた……1
本体設定……37
本体付属品……2

マ

マーケット……32
マイク……20
無線LAN（WLAN）……16, 24
無線とネットワーク……37
メール……38
文字種……33
文字入力……33

ヤ

ユーザー補助……37
輸出管理規制……63

ラ

連絡先……38
　登録する……38

英数字

3D動画 ………… 42
　撮影する………… 42
　見る………… 43
3Dビデオカメラ ………… 42
3Dプレイヤー ………… 43
Androidマーケット ………… 32
Bluetooth ………… 15, 45
　接続………… 46
　ペアリング………… 46
Device Storage………… 45
European Union Directives Conformance Statement ………… 61
FAQ ………… 48
FCC Compliance Statement ………… 60
FCC Radio Frequency (RF) Information ………… 55
FOMA端末の取り扱い ………… 7, 13
Gmail………… 38
Googleトーク ………… 39
Important Safety Information………… 62
IPアドレス ………… 25
microUSB-USB A変換アダプタ ………… 47
OSバージョンアップ ………… 54
PINコード………… 35
PINロック解除コード（PUKコード）………… 35
PUKロック ………… 36
SAR ………… 57
Wi-Fi ………… 24
Windows Media Player ………… 44

ご契約内容の確認・変更、各種サービスのお申込、各種資料請求をオンライン上で承っております。

My docomo（http://www.mydocomo.com/）▶ 各種お申込・お手続き

※ ご利用になる場合、「docomo ID ／パスワード」が必要となります。
※「ネットワーク暗証番号」および「docomo ID ／パスワード」をお持ちでない方・お忘れの方は、本書裏面の「総合お問い合わせ先」にご相談ください。
※ ご契約内容によってはご利用になれない場合があります。
※ システムメンテナンスなどにより、ご利用になれない場合があります。

マナーもいっしょに携帯しましょう

FOMA端末を使用する場合は、周囲の方の迷惑にならないように注意しましょう。

こんな場合は必ず電源を切りましょう

■ 使用禁止の場所にいる場合

航空機内、病院内では、必ずFOMA端末の電源を切ってください。

※ 医用電気機器を使用している方がいるのは病棟内だけではありません。ロビーや待合室などでも、必ず電源を切ってください。

■ 満員電車の中など、植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器を装着した方が近くにいる可能性がある場合

植込み型心臓ペースメーカおよび植込み型除細動器に悪影響を与える恐れがあります。

■ 劇場・映画館・美術館など公共の場所にいる場合

静かにするべき公共の場所でFOMA端末を使用すると、周囲の方への迷惑になります。

プライバシーに配慮しましょう

カメラ付き携帯電話を利用して撮影や画像送信を行う際は、プライバシーなどにご配慮ください。

こんな機能が公共のマナーを守ります

FOMA端末から鳴る音を消す設定など、便利な機能があります。

■ 機内モード

電波を発する機能をすべて無効にします。

この印刷物はリサイクルに配慮して製本されています。
不要となった際は、回収、リサイクルに出しましょう。

総合お問い合わせ先
〈ドコモ インフォメーションセンター〉

■ドコモの携帯電話からの場合

(局番なしの) **151** (無料)

※一般電話などからはご利用になれません。

受付時間　午前9:00～午後8:00(年中無休)

■一般電話などからの場合

0120-800-000

※一部のIP電話からは接続できない場合があります。

故障お問い合わせ先

■ドコモの携帯電話からの場合

(局番なしの) **113** (無料)

※一般電話などからはご利用になれません。

受付時間　24時間(年中無休)

■一般電話などからの場合

0120-800-000

※一部のIP電話からは接続できない場合があります。

●番号をよくご確認の上、お間違いのないようにおかけください。
●各種手続き、故障・アフターサービスについては、上記お問い合わせ先にご連絡いただくか、ドコモホームページにてお近くのドコモショップなどにお問い合わせください。

ドコモホームページ http://www.nttdocomo.co.jp/

海外での紛失、盗難、精算などについて
〈ドコモ インフォメーションセンター〉(24時間受付)

ドコモの携帯電話からの場合

滞在国の国際電話アクセス番号 **-81-3-6832-6600*** (無料)

*一般電話などでかけた場合には、日本向け通話料がかかります。

一般電話などからの場合〈ユニバーサルナンバー〉

ユニバーサルナンバー用国際識別番号 **-8000120-0151***

*滞在国内通話料などがかかる場合があります。

※主要国の国際電話アクセス番号／ユニバーサルナンバー用国際識別番号については、ドコモの『国際サービスホームページ』をご覧ください。

海外での故障について
〈ネットワークオペレーションセンター〉(24時間受付)

ドコモの携帯電話からの場合

滞在国の国際電話アクセス番号 **-81-3-6718-1414*** (無料)

*一般電話などでかけた場合には、日本向け通話料がかかります。

一般電話などからの場合〈ユニバーサルナンバー〉

ユニバーサルナンバー用国際識別番号 **-8005931-8600***

*滞在国内通話料などがかかる場合があります。

※主要国の国際電話アクセス番号／ユニバーサルナンバー用国際識別番号については、ドコモの『国際サービスホームページ』をご覧ください。

●紛失・盗難などにあわれたら、速やかに利用中断手続きをお取りください。
●お客様が購入されたFOMA端末に故障が発生した場合は、ご帰国後にドコモ指定の故障取扱窓口へご持参ください。

マナーもいっしょに携帯しましょう。

○公共の場所で携帯電話をご利用の際は、周囲の方への心くばりを忘れずに。

販売元　株式会社NTTドコモ
製造元　LG Electronics Inc.

大豆油インキを使用しています。

再生紙を使用しています　Printed in Korea(H)

'11.07 (2.1版)
MFL67222101